

看護学科

■ 看護学科 目次

基礎分野

科学的思考の基盤

現代社会と倫理	1
他者理解のための心理学	2
支援のための教育学	3
文章表現法	4
情報科学	5

人間と生活・社会の理解

文化と生活	6
英語 I (医療場面の英会話)	7
英語 II (文献読解)	8
人間理解	9
人間関係とコミュニケーション	10
健康とスポーツ	11
健康とレクリエーション	12
家族看護論	13

専門基礎分野

人体の構造と機能

体のしくみとはたらき I (からだを支える)	14
体のしくみとはたらき II (生きていくしくみ)	15
体のしくみとはたらき III (生命を維持する循環)	16
体のしくみとはたらき IV (生命を維持する環境)	17
臨床生化学	18

疾病の成り立ちと回復の促進

病態論	19
疾病と治療 I (呼吸循環機能障害)	20
疾病と治療 II (栄養代謝機能障害)	21
疾病と治療 III (内部環境調整・生体防御機能障害)	22
疾病と治療 IV (運動・感覚機能障害)	23
治療論 I (臨床栄養学、リハビリテーション論)	24
治療論 II (がんの治療)	25
治療論 II (周手術期の治療)	26
臨床心理学	27
臨床薬理学	28
微生物と感染症	29

健康支援と社会保障制度

医療と法	30
健康支援の保健活動	31
社会福祉論	32
障がい者福祉論	33
医療安全	34

専門分野 I

基礎看護学

看護学概論	35
看護研究理論	36
看護研究の実際	37
看護の基本となる技術	38
生活行動を支える技術 I (生活環境と活動)	39
生活行動を支える技術 II (セルフケア)	40
基礎看護技術演習	41
対象を把握するための技術	42
看護を展開するための技術	43
健康の回復を支える技術 I (症状・経過に伴う技術)	44
健康の回復を支える技術 II (診断・治療・処置に伴う技術)	45

臨地実習

看護の基本となる実習 I（看護を知る・日常生活援助方法を知る）	46
看護の基本となる実習 II（看護を展開するための基礎）	47

専門分野 II

成人看護学

成人看護学概論	48
生命・危機状態・手術を受ける人への看護	49
身体機能の回復を目指す人への看護	50
生活習慣の改善を必要とする人への看護	51
緩和ケアを必要とする人への看護	52
成人看護を展開するための技術	53

老年看護学

老年看護学概論	54
高齢者の健康生活と支援	55
高齢者の健康障害と看護	56
老年看護を展開するための技術	57

小児看護学

子ども看護学概論	58
子ども健康生活への援助	59
子どもに起こりやすい疾病	60
子どもの健康障害と看護	61

母性看護学

母性看護学概論	62
母子の健康を整える看護	63
健康に障害のある母子の看護	64
女性の健康課題と看護	65
母子への看護を展開するための技術	66

精神看護学

精神看護学概論	67
精神障がいをもつ人の理解	68
精神障がいをもつ人の看護	69

臨地実習

成人看護学実習 I（生命危機状態・周手術期にある人への看護）	70
成人看護学実習 II（生活習慣の改善・緩和ケアを必要とする人への看護）	71
老年看護学実習 I（生活援助、療養・リハビリテーションを必要とする高齢者の看護）	72
老年看護学実習 II（治療を必要とする高齢者の看護）	73
小児看護学実習（健康・発達障害のある子どもの理解と援助、健康障害のある子どもの看護）	74
母性看護学実習（周産期の看護・乳児期の看護）	75
精神看護学実習	76

看護の統合と実践分野

在宅看護論

在宅看護概論	77
在宅での生活行動を支える技術	78
医療依存度の高い療養者を支える技術	79
障がいをもつ人の理解と支援（知的障害・発達障害の理解）	80
障がいをもつ人の理解と支援（重症心身障害者の看護）	81

看護の統合と実践

国際看護・災害看護	82
看護と理論	83
看護を提供するしくみ	84
総合判断技術演習	85

臨地実習

在宅看護論実習（在宅支援実習・重度障害をもつ人の支援実習）	86
看護の統合と実践実習（看護のしくみの理解実習・看護判断総合実習）	87

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	現代社会と倫理 30時間・1単位	教員名	柴岡 元
概要及び目的	<p>社会人として幅広い知識を備えることは大切なことである。そして、知識が知恵となって、職業生活を円滑に進めていく上で必要な柔軟なものの考え方や判断力・行動力が身につければ申し分のないことである。</p> <p>このため高齢化・少子化が急速に進展していく今日、どのような職業にあっても、「社会人基礎力」とは何かについて学ぶことは大切なことである。</p> <p>さらに授業では、新聞やテレビなどのマスメディアで取り上げられた話題などについて、これを的確に理解できる力を養うとともに、憲法や税などに関する基本的な知識を身につけ、良識ある看護師を育成する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の国内外の出来事を考え理解するために、講義ごと毎回30分程度の時間をかけて、1週間ごとの新聞のなかから話題を取り上げ、内容を掘り下げて解説する。質疑応答を大切にしたい。 2. 「現代社会」の特色を学び、「社会人基礎力」が身につくよう学習する。 3. 対人関係の基礎や自己理解について学習する。 4. 日本国憲法の基本的な性格を学習する。 5. 年金と税の基本的な内容について学習する。 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 出席点を加味する 		
テキスト	資料配付		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	他者理解のための心理学 30時間・1単位	教員名	花房 香
概要及び目的	本講義では、人の心はどのように発達して、われわれの行動にどのように影響しているのかなど、人をよりよく理解するために必要な心理学の基礎的な考え方や法則について学習する。また、実際の臨床現場で出会う患者や彼らを取り巻く人々、また看護者自身の心理的側面への理解を深めるために知っておく必要がある理論的背景について学習する。授業では、講義のほか、演習も適宜行う。		
授業内容	<p>1. 心理学とは何か 　「心理学」という学問とその歴史について</p> <p>2. 人間の心理学的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学習 　さまざまな学習理論、記憶、知能など ②パーソナリティ 　パーソナリティ理論、心理検査など ③発達 　各発達段階の特徴（胎児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期） <p>3. 患者と彼らを取り巻く人々の心理的理義と援助の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ストレスと不安 　ストレスと不安のメカニズム、ストレスと不安の病理 ②家族 　家族の役割、家族システムなど ③患者と医療者の心理 　患者の情動、防衛機制、転移・逆転移など 		
評価方法	<p>1. レポート</p> <p>2. 出席</p> <p>3. 試験</p>		
テキスト	内山喜久雄・上里一郎 編「新看護心理学」ナカニシヤ出版		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	看護学科
科目名	支援のための教育学 30時間・1単位	教員名	楢原 靖
概要 及び 目的	<p>本講は、教育学の基礎理論の学習を通して、支援者としての看護師活動の一助となる事を目指し、その資質・能力を養う。</p> <p>①教育の営みと人の発達を理解する ②学習・指導・評価そしてその工夫 ③看護師としてのキャリア開発のための学習、という3つの視点から講義を行う。</p>		
授業内容	<p>単元I オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ看護師をめざすのに「教育学」が必要なのか? —教育的支援者としての看護師— 2. 教育は人類に何をもたらしたのか? —教育とは? 教育の発生と果たす役割— —生物の遺伝、著作「エミール」(ルソー)、生理的早産説(ポルトマン) — <p>単元II 人の発達過程の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 人の発達段階と発達課題 —一般的な発達を知り、各支援に生かす— 4. 認知・自己の発達・対人関係の発達について —認知能力の発達(ピアジェ) 自己意識の発達(エリクソン) 対人関係:社会化— —ホスピタリズムと愛情形成— <p>単元III 学習についての理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 人はどのように学習するのか? —学習の領域 知識(認知的領域) 技能(精神運動的領域) 態度(情意的領域) — 6. 学習意欲を高める技法とは? —学習の動機づけの基本原理 外発的動機づけと内発的動機づけ— <p>単元IV 指導についての理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 指導者の役割とは? —指導者の姿勢と6つの役割— 8. 計画的な指導とは? —わかりやすい学習目標(RUMBAによるチェック) — <p>単元V 評価についての理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 評価の役割とは? —評価の構成要素 評価主体・評価基準・評価時期— 10. 効果を高める工夫とは? —目標に適した評価の選択— <p>単元VI 効果的な指導と学習について</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 指導に役立つコミュニケーション技術とは? —ラポール状態 傾聴 アサーション 非言語コミュニケーション 発問 指示— 12. 学習を深めるディスカッションの技法とは? —ディスカッションの教育的意義と協同学習(バズ学習、シンク・ペア・シェア) — <p>単元VII 看護師としての学習とキャリア開発</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 看護師としての学習とは? 14. 看護師としてのキャリア開発とは? 15. まとめ 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席点 2. テスト 		
テキスト	必要に応じて資料を配布。(A4 2穴ファイル用意しておいてください)		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	文章表現法 選択・30時間・1単位	教員名	廣本 勝裕
概要及び目的	多様な題材による総合的な言語活動を通じて、わかりやすく適切に伝えるための文章表現力を伸ばすことを目的とします。		
授業内容	1 科目のオリエンテーション 「これまでの国語学習を振り返り、『文章表現法』の学習内容を把握しよう。」 2 文章表現の基礎（1） 「日本語の成り立ちと特徴を踏まえ、文章表現の基本を確認しよう。」 3 文章表現の基礎（2） 「漢字・仮名・その他の記号などの表記の原則を理解しよう。」 4 わかりやすく適切に伝えるために（1） 「文章の特徴を踏まえてテーマを決め、形式を整えて記述しよう。」 5 わかりやすく適切に伝えるために（2） 「構成を工夫し、根拠や論拠を明確にして自分の意見を展開しよう。」 6 わかりやすく適切に伝えるために（3） 「情景や心情の描写を取り入れながら、自分の思いを随筆に表現しよう。」 7 表現を広げるために 「語句・語彙（熟語、慣用句、故事成語、同音異義語等）を充実しよう。」 8 表現を確かにするために 「口語文法を確認するとともに表現技法（修辞法）を活用しよう。」 9 表現を高めるために 「推敲や校正の作業を通じて、文章の向上を図ろう。」 10 敬語法の理解と実践 「相手や場を念頭に置いた敬語の基本的な使い方に習熟しよう。」 11 各種の情報をもとにした表現の展開 「統計や調査結果等の資料を分析し、立場を明らかにして提案を行おう。」 12 様々な種類の文章を書く（1） 「短編小説を読んで、感想をまとめるとともに、その短編小説の続きを構想しよう。」 13 様々な種類の文章を書く（2） 「形式を整え、相手の心に響く手紙を書こう。」 14 様々な種類の文章を書く（3） 「正しくわかりやすく伝えるための告知の条件を考えよう。」 15 まとめの学習 「これまでの学習を通じて身に付けたことを確認しよう。」		
評価方法	<input checked="" type="radio"/> 「各授業で取り組んだ課題の提出状況」 <input type="radio"/> 授業における学習状況（関心・意欲・態度） <input type="radio"/> 出席点		
テキスト	<input type="radio"/> 授業ごとに配付するプリントを基本テキストとして授業を行います。		
備考	<input type="radio"/> 授業には、「国語辞典」（現在持っているものでよい）を持参してください。 <input type="radio"/> 授業で用いた教材・資料を保存し活用するための「フラットファイル」（厚さ1.5cm程度の標準的なものでよい）を1部用意してください。		

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	情報科学 30時間・1単位	教員名	渡邊 佳代・三上 史哲・ 島本 博典
概要及び目的	<p>保健・医療分野におけるコンピュータ化の波は著しく、電子カルテシステムなど病院情報システムの導入に伴い、看護業務にもコンピュータを利活用する時代となった。</p> <p>そこで、本講義では医療における情報とは何かを学び、医療現場で発生する情報について、表計算ソフトを用いた統計処理、ワープロソフトを用いた報告書作成、プレゼンテーションソフトを用いた発表用スライド作成、などを行い、情報処理能力の向上を目指す。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「保健医療と情報」、「情報倫理と医療倫理」 <ul style="list-style-type: none"> ・医療における情報とエビデンス情報に基づいた保健医療 ・医療における情報倫理と守秘義務、医の倫理に関する歴史 2. 「患者の権利と情報」、「個人情報の保護」 <ul style="list-style-type: none"> ・患者の権利と自己決定への支援、診療情報の開示 ・医療看護における個人情報、情報の利用の仕方 3. 「コンピュータリテラシーとセキュリティー」 <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ・インターネットのしくみとセキュリティー ・パソコンの基本操作とタッチタイピング 4. 「看護と情報」、「医療における情報システム」 <ul style="list-style-type: none"> ・看護における情報、病院情報システムと記録の仕方 5. 「調査によるデータ収集方法」 <ul style="list-style-type: none"> ・調査を実施してデータを収集する ・表計算ソフト Microsoft Excel の概要（表計算、計算・関数、グラフ作成） 6. 「Excelによる統計解析 1」 <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Excel の分析ツールを用いて基本統計量を求める 7～8. 「Excelによる統計解析 2」 <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Excel のピボットテーブルを用いて分割表、グラフを作成する 9. 「表計算ソフトによる文書作成」 <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Excel を用いてクリニカルパスを作成する 10. 「既存の情報の収集方法」 <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットによる情報収集 11～13. 「文字情報の整理」 <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft Word を用いて報告書を作成する 14～15. 「情報の発表とコミュニケーション」 <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft PowerPoint の基本操作 ・Microsoft PowerPoint を用いて報告書の内容を発表用スライドに加工する 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講態度、出席日数 2. レポート、学期末試験 		
テキスト	医学書院「看護情報学」 プリント配布		
備考	USBメモリを用意してください。		

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	文化と生活 30時間・1単位	教員名	柴岡 元
概要及び目的	<p>良き職業人は良き社会人でなくてはならない。多くの患者と接する看護師は、専門的な技量にとどまらず、幅広い知識が必要であり、また何よりも豊かな人間性が求められる。</p> <p>当学科では、教養を高め深める授業をおこなう。このため授業では、新聞やテレビなどのマスメディアで取り上げられた話題などについて、これを的確に理解できる力を養う。</p> <p>また、良き職業人としての人間力の基礎は、誰からも信頼される人間性である。このため、コミュニケーションの大切さを理解し、その基本的なスキルについて考え方につける。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在の身近な生活環境を考えるために、講義ごと毎回30分程度の時間をかけて、1週間ごとの新聞のなかから話題を取り上げ、内容を掘り下げて解説する。質疑応答を大切にしたい。 2. コミュニケーション力を磨くため、話し上手・聞き上手のこつや基本的なマナーを身につける。 3. 日本人と日本文化の良さを、その特性、言葉、食生活、文化遺産などを取り上げて考える。 4. 音楽や絵画に関する鑑賞力を養う。 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 出席点を加味する 		
テキスト	資料配布		
備考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	看護学科
科目名	英語 I (医療場面の英会話) 30 時間・1 単位	教員名	宮宅 由美子
概要 及び 目的	日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考え方などを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。		
授業内容	<p>1. Self-Introduction 2. Parts of Body 3. Jobs 4. Telling the Way 5. Talking on the Phone 6. Shopping 7. Who is it?</p> <p>※English songs and Quiz</p>		
評価方法	<p>1. 試験 2. 出席点、授業態度、提出物 3. 発表点、小テスト他</p>		
テキスト	テキストは使用しません。 講義ごとに、資料を配付します。		
備考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	看護学科
科目名	英語 II (文献読解) 30 時間・1 単位	教員名	宮宅 由美子
概要 及び 目的	看護現場に直結した医療、健康、社会、生活などの身近な題材を扱い、英語で書かれた内容を理解する能力を養うと共に、将来の仕事に役立つ英語によるコミュニケーション能力の養成を目的とする。		
授業内容	Unit 1. What Worries Barbara ? Unit 2. That's Mama's hair ! Unit 3. Menstrual Problems Unit 4. Right or Left ? Unit 5. How to Give First Aid Unit 6. Make a Restroom More Accessible to LGBT People Unit 7. Are You Being Abused ? Unit 8. Giving Blood Unit 9. Living a Healthy Life Unit 10. Is the Treatment Different or Not ? Unit 11. Is Hepatitis B Curable ? Unit 12. Do you want to be skinny ? Unit 13. You Need a Breast Self-Examination Unit 14. Foreign Nurses Struggle for the Japanese language		
評価方法	1. レポート・試験 2. 出席点・授業態度・提出物 3. 発表点・小テスト他		
テキスト	Take Care ! SANSHUSHA		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	人間理解 15時間・1単位	教員名	双田 清美
概要 及び 目的	<p>人間とはどんなものか 人間の本性をどのようにみるか</p> <p>人間に興味と関心を持ち、さまざまな人々の思いや考えに触れ、人間の多様性や個別性を理解する。又、看護の対象である人とのコミュニケーションを図るために基本となるものを他者との対話をとおして学ぶ。さらに自分自身の思いや考えを他者に言葉で適切に表現できることを学習する。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・映画やドキュメンタリーを鑑賞し、さまざまな生き方に触れる ・グループディスカッション ・プレゼンテーション 		
評価方法	①提出課題 ②出席点 ③態度点		
テキスト	必要時、資料を配布する。		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	人間関係とコミュニケーション 30時間・1単位	教員名	杉山 嘉弘
概要及び目的	人と人との関係が多様化・希薄化し、看護や養育における人間関係の形成・促進がむずかしい時代となってきた。そこで、人間関係の意義や人間関係づくりの技法等を講義や演習を通して学習し、自分自身の理解や望ましい人間関係づくりの実践をめざす。		
授業内容	① 1. 人間関係の意義…人間関係と自己実現、人間関係づくり10ヶ条 ② 2. 人間関係と心の成長、ストレスと不適応、家族力動 ③ 3. 人間関係を築くために (1)肌のふれ合い、ストロークトレーニング (2)声かけ ④ (3)アイコンタクトと笑顔 (4)遊び、人間関係体験学習 ⑤ (5)聞くこと…聞き方テスト、聞き方練習、カウンセリング・マインド ⑥ (6)ほめること…ほめほめゲーム (7)教えること…教えてゲーム、適応の10ヶ条 ⑦ (8)叱ること…命・人権・法 (9)任せて見守る、練習 ⑧ (10)リラクゼーション…私のストレス、自律訓練等 ⑨ 4. カウンセリング理論 (1)来談者中心理論、VTR ⑩ (2)行動療法 (3)論理療法 (4)ゲシュタルト療法 ⑪ (5)精神分析 ア. 精神分析 イ. 個人心理学 ウ. 分析心理学 エ. 実存分析 ⑫ 5. 不適応行動 (1)不登校 (2)非行 (3)いじめ ⑬ (4)発達障害(自閉症スペクトラム障害) 6. 自己理解 (1)夢の分析 ⑭ (2)バウムテスト (3)エゴグラム ⑮ 評価		
評価方法	1. 授業中の集中力 2. 講義内容と将来の生活に生かす筆記試験 3. 出席状況		
テキスト	『子どもの自己実現とその支援』吉備人出版2,415円		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	健康とスポーツ 30時間・1単位	教員名	南波 紀子
概要 及び 目的	健康の維持・増進のための運動の意義について考え、運動による身体・精神面への影響について理解し、日常生活における保健の基礎知識を深め、自身の健康増進を図る。		
授業内容	<p>1. 健康とはなにか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養、休養、運動と健康 ・生活のリズムと健康 ・食生活と健康 ・労働と健康 <p>2. 運動処方と体力づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力づくり ・バレーボール、バドミントン、卓球、マット運動、なわとび ・野外活動 ・ニュースポーツ 		
評価方法	1. 出席点、遅刻、早退、受講態度の総合で評価する。		
テキスト	使用しない。 必要に応じてプリントを配布		
備考	スポーツウェア、屋内、屋外シューズ、ゼッケンの用意		

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	健康とレクリエーション 15時間・1単位	教員名	大林 秀行
概要 及び 目的	伝統文化の運動技術をとおして、身体表現の知識と対人技術を身につけ、対象者との豊かな関わり方や健康づくりへの実践力を身につける。		
授業内容	1. 日本の伝統文化の理解 武道とスポーツの違い 2. 剣道の特性 • 仏教・儒教の理解 • 日本剣道形の習得 3. 剣道の心と看護の心 • 人としての生き方、在り方		
評価方法	1. 実技テスト 2. レポート 3. 学習意欲		
テキスト	プリントを配布する		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科																					
科目名	家族看護論 15時間・1単位	教員名	双田 清美																					
概要 及び 目的	<p>看護の視点として、患者支援と同様家族支援は当然のケアとして位置づけられている。家族看護の目的は、患者と家族の意思決定を支え、家族機能がより良い方向へ向かうように支援することである。</p> <p>この科目では、学習者それぞれが自分の家族について関心をもち家族とは何かを考える。また、演習をとおして、家族が入院することで他の家族にどのような影響があるのか考え、家族機能がより良い方向へ変化するためにはどのような看護が必要かを理解する。</p>																							
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内 容</th><th>授業形態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 「自分の家族、家族とは」について考える</td><td>講義・演習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>パフォーマンス課題の解決に向けてチームで取り組む①</td><td>グループワーク</td></tr> <tr> <td>3</td><td>家族看護モデルの概要 カルガリー式看護モデルについて</td><td>講義</td></tr> <tr> <td>4～6</td><td>パフォーマンス課題にチームで取り組む②～④</td><td>グループワーク</td></tr> <tr> <td>7</td><td>パフォーマンス課題解決に向けて取り組んだ成果を資料でまとめ、チームでプレゼンテーション</td><td>演習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>個人でまとめた資料を相互評価・全体まとめ・小テスト</td><td>演習・テスト</td></tr> </tbody> </table>			回	内 容	授業形態	1	導入 「自分の家族、家族とは」について考える	講義・演習	2	パフォーマンス課題の解決に向けてチームで取り組む①	グループワーク	3	家族看護モデルの概要 カルガリー式看護モデルについて	講義	4～6	パフォーマンス課題にチームで取り組む②～④	グループワーク	7	パフォーマンス課題解決に向けて取り組んだ成果を資料でまとめ、チームでプレゼンテーション	演習	8	個人でまとめた資料を相互評価・全体まとめ・小テスト	演習・テスト
回	内 容	授業形態																						
1	導入 「自分の家族、家族とは」について考える	講義・演習																						
2	パフォーマンス課題の解決に向けてチームで取り組む①	グループワーク																						
3	家族看護モデルの概要 カルガリー式看護モデルについて	講義																						
4～6	パフォーマンス課題にチームで取り組む②～④	グループワーク																						
7	パフォーマンス課題解決に向けて取り組んだ成果を資料でまとめ、チームでプレゼンテーション	演習																						
8	個人でまとめた資料を相互評価・全体まとめ・小テスト	演習・テスト																						
評価方法	<p>知識 : 学習内容・小テスト</p> <p>スキル : チームのプレゼンテーション・資料</p> <p>思考判断表現 : 授業参加度・プレゼンテーション・個人資料の内容・ノート内容</p>																							
テキスト	<p>『グループワークで学ぶ 家族看護論』医歯薬出版</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族看護学 理論と実践、日本看護協会出版会 ・印刷資料 																							
備考																								

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	体のしくみとはたらきⅠ 30時間・1単位	教員名	柳原 衛
概要 及び 目的	<p>ヒトの身体の構造と機能の正常な状態について、系統的に理解できることをねらいとする。人体の発生、身体の形態と機能を、各器官別に系統的に関連づけて理解し、生命を保つために必要な構造と機能を理解する。</p> <p>体のしくみとはたらきⅠにおいては、人体の素材としての細胞・組織、および体の支持と運動について学ぶ。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の概略 2. 細胞の構造 3. 核酸とタンパク質合成 4. 細胞膜の構造と機能 5. 組織の種類と特徴 6. 人体を表す基本用語 7. 体液とホメオスタシス 8. 骨の構造、骨の発生と成長 9. 関節の構造と種類 10. 骨格筋の構造と作用 11. 体幹の骨格と筋 12. 上肢の骨格と筋 13. 下肢の骨格と筋 14. 頭頸部の骨格と筋 15. 筋の収縮 16. 期末試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末テスト 2. 授業中に行う小テスト 3. 出席および授業への取り組み姿勢 		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)「解剖生理学」、医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	体のしくみとはたらきⅡ 30時間・1単位	教員名	柳原 衛
概要 及び 目的	<p>ヒトの身体の構造と機能の正常な状態について、系統的に理解できることをねらいとする。人体の発生、身体の形態と機能を、各器官別に系統的に関連づけて理解し、生命を保つために必要な構造と機能を理解する。</p> <p>体のしくみとはたらきⅡにおいては、栄養の消化と吸収、情報の受容と処理、および、生殖・発生と老化のしくみについて学ぶ。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口・咽頭・食道の構造と機能 2. 腹部消化管の構造と機能 3. 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4. 消化と吸収 5. 神経細胞の構造と生理 6. 脳の発生、脳室と髄膜 7. 脊髄の構造と機能 8. 脳幹の構造と機能 9. 終脳の構造と機能 10. 脊髄神経と脳神経 11. 神経伝導路、高次神経機能 12. 眼の構造と視覚 13. 耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、痛覚 14. 生殖器系、受精と胎児の発生、成長と老化 15. 期末試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末テスト 2. 授業中に行う小テスト 3. 出席および授業への取り組み姿勢 		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)「解剖生理学」、医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	体のしくみとはたらきⅢ(生命を維持する循環) 30時間・1単位	教員名	片山 雅博
概要及び目的	<p>医学の学習は、正常な人体の形態と構造（解剖学）を知り、その機能と役割（生理学）を学ぶことから始まります。「解剖・生理学」を学ぶことによって初めて、病気の成り立ち・仕組み（病態生理）やその症状・経過が理解でき、それらに基づいて正しい診断・治療が可能となり、適切な看護ができます。</p> <p>すなわち、<u>体のしくみとはたらき</u>を学ぶ「解剖・生理学」は医学体系の基礎となる学問であり、人体の構造・機能をしっかりと学ぶことによって、他の医学に関する学問すべてが容易に理解可能となります。（反対に、解剖・生理学をおろそかにすれば、他の授業内容が理解できないことになります）</p> <p>この「体のしくみとはたらきⅢ」では主として生命の維持に関係する「呼吸・循環」（肺、心臓、血液）を中心に講義を進めていきます。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：「解剖・生理学」とは、その学び方 <h3>第3章 呼吸と血液の働き</h3> <ol style="list-style-type: none"> 2. 呼吸器の構造 3. 呼吸とは：呼吸運動（呼吸筋の働き）、換気、外呼吸と内呼吸 4. 呼吸器の機能①：肺胞の機能、呼吸のメカニズム 5. 呼吸器の機能②：呼吸気量（1回換気量、肺活量、1秒量・1秒率） 6. 呼吸器の機能③：ガス交換とガス（酸素と二酸化炭素）の運搬、エネルギー産生 7. 呼吸運動の調節：呼吸中枢、血液ガス（PaO₂、PCO₂、血液pH）、病的呼吸 8. 呼吸器系の病態生理：換気障害、拡散障害 9. 血液の組成と血球（赤血球、白血球、血小板）の分化 10. 血液の組成と機能：赤血球の働き、白血球の働き 11. 血液凝固の仕組み（血小板、凝固因子の働き）、血液型 <h3>第4章 血液の循環とその調節</h3> <ol style="list-style-type: none"> 12. 心臓の構造 13. 心臓の拍出機能：心臓の興奮とその伝播、心電図 14. 心臓の拍出機能：心臓収縮、血圧とその調節 15.まとめ 		
評価方法	呼吸・循環系についての解剖生理の理解度を <u>筆記試験</u> により評価・判定する。		
テキスト	系統看護学講座：専門分野 人体の構造と機能 [1] 「解剖生理学」 医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	体のしくみとはたらきIV(生命を維持する環境) 30時間・1単位	教員名	片山 雅博
概要及び目的	<p>医学の学習は、正常な人体の形態と構造（解剖学）を知り、その機能と役割（生理学）を学ぶことから始まります。「解剖・生理学」を学ぶことによって初めて、病気の成り立ち・仕組み（病態生理）やその症状・経過が理解でき、それらに基づいて正しい診断・治療が可能となり、適切な看護ができます。すなわち、<u>体のしくみとはたらき</u>を学ぶ「解剖・生理学」は医学体系の基礎となる学問であり、人体の構造・機能をしっかりと学ぶことによって、他の医学に関する学問すべてが容易に理解可能となります。（反対に、解剖・生理学をおろそかにすれば、他の授業内容が理解できないことになります）</p> <p>この「体のしくみとはたらきIV」では主として<u>生命を維持する「環境」</u>（腎臓、内分泌系、免疫）を中心に講義を進めていきます。</p>		
授業内容	<p>第4章 血液の循環とその調節</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 血管の構造、全身の動脈・静脈 2. 血液循環の調節：血圧、血圧・血流量の調節 3. 循環器系の病態生理、リンパ系 <p>第5章 体液の調節と尿の生成</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 腎臓の構造とその働き 5. 糸球体機能（濾過）、傍糸球体装置の機能（レニン、エリスロポエチン） 6. 尿細管の機能、排尿路、 7. 体液の調節：脱水、電解質異常、酸塩基平衡 <p>第6章 内臓機能の調節</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 自律神経による調節：交感神経と副交感神経の構造と働き（神経伝達物質） 9. 内分泌系による調節：ホルモンの作用機序 10. 内分泌腺と内分泌細胞I：視床下部一下垂体系、甲状腺 11. 内分泌腺と内分泌細胞II：胰臓、副腎、性腺 12. ホルモン分泌の調節：糖代謝、カルシウム代謝、高血圧 <p>第9章 外部環境からの防御</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 免疫の仕組み：細胞性免疫、液性免疫、予防接種、アレルギー 14. 皮膚の構造と機能、体温とその調節 15. その他 		
評価方法	腎臓、内分泌系、免疫についての解剖生理の理解度を筆記試験により評価・判定する。		
テキスト	系統看護学講座：専門分野 人体の構造と機能 [1] 「解剖生理学」 医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	臨床生化学 15時間・1単位	教員名	清水 憲二
概要及び目的	体がどのような成分から成り立ち、それがどのように壊され、作られ、調節されて健康を維持しているかを物質のレベルで明らかにすることを学習する。また、これらの知識を学び、健康な場合と病んだ場合を比較して、どのような変化がみられているのか、どのようにすれば正常に戻るかを学習することで疾患を理解するのに結びつける。		
授業内容	1. 代謝総論 2. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質 3. 酵素 4. (1) 糖質代謝 (2) 脂質代謝 (3) タンパク質とアミノ酸の代謝 (4) 核酸・ヌクレオチドの代謝 5. エネルギー代謝の統合と制御 6. 遺伝情報 7. 代謝と疾患		
評価方法	定期試験の成績を中心に、出席状況、授業態度、課題レポート等による総合評価を行う。		
テキスト	『臨床生化学』メディカ出版		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	病態論 30時間・1単位	教員名	兵藤 文則・西谷 耕二
概要 及び 目的	健康障害時の対象の病態を理解するために、炎症、腫瘍、代謝異常、自己免疫、退行性変化、奇形、外傷などについての基本病理を学習し、病因と病変の特徴を理解する。		
授業内容	1. 病理学の概念 2. 病因論 3. 退行性変化 4. 循環の障害 5. 免疫 6. 炎症 7. 感染症 8. 肿瘍 9. 先天異常		
評価方法	1. レポート 2. 筆記試験		
テキスト	系統看護学講座『専門基礎分野4、疾病のなりたちと回復の促進(1)、病理学』医学書院		
備考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	看護学科
科目名	疾病と治療 I (呼吸循環機能障害) 30 時間・1 単位	教員名	吉田 清
概要及び目的	人体の解剖生理などの基礎知識をもとにして、疾病的種別、その原因を知り、それぞれの症状の特徴を把握し、臨床の基礎を習得する。内科的治療を受ける患者の各系統の疾患別に必要な諸検査の方法と診断の根拠を知り、治療法の内容を学び、臨床での実践を効果的なものとする。		
授業内容	呼吸・循環機能を障害されている人の理解 I－1 呼吸器疾患の理解 I－2 症状・徵候とその病態生理 I－3 検査と治療・処置 II－1 循環器疾患の理解 II－2 症状・徵候とその病態生理 II－3 検査と治療・処置		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座『専門II、成人看護学(2)呼吸器』医学書院 系統看護学講座『専門II、成人看護学(3)循環器』医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	疾病と治療Ⅱ(栄養代謝機能障害) 30時間・1単位	教員名	山本 壽幸
概要及び目的	人体の解剖生理などの基礎知識をもとにして、疾病的種別、その原因を知り、それぞれの症状の特徴を把握し、臨床の基礎を習得する。内科的治療を受ける患者の各系統の疾患別に必要な諸検査の方法と診断の根拠を知り、治療法の内容を学び、臨床での実践を効果的なものとする。		
授業内容	栄養代謝機能を障害されている人の理解 I－1 消化器疾患の理解 I－2 症状・徵候とその病態生理 I－3 検査と治療・処置 II－1 腎・泌尿器疾患の理解 II－2 症状・徵候とその病態生理 II－3 検査と治療・処置 III－1 糖代謝疾患の理解 III－2 症状・徵候とその病態生理 III－3 検査と治療・処置		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点を加味する		
テキスト	系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学(5)消化器』医学書院 系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学(8)腎・泌尿器』医学書院 系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学(6)内分泌・代謝』医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	疾病と治療Ⅲ(内部環境調節・生体防御機能障害) 30時間・1単位	教員名	片山 雅博
概要及び目的	人体の解剖生理などの基礎知識をもとにして、疾病的種別、その原因を知り、それぞれの症状の特徴を把握し、臨床の基礎を習得する。内科的治療を受ける患者の各系統の疾患別に必要な諸検査の方法と診断の根拠を知り、治療法の内容を学び、臨床での実践を効果的なものとする。		
授業内容	内部環境調節を障害されている人の理解 I-1 内分泌疾患の理解 I-2 症状・徵候とその病態生理 I-3 検査と治療・処置 生体防御機能を障害されている人の理解 II-1 アレルギー疾患の理解 II-2 症状・徵候とその病態生理 II-3 検査と治療・処置 III-1 自己免疫疾患の理解 III-2 症状・徵候とその病態生理 III-3 検査と治療・処置 IV-1 感染症疾患の理解 IV-2 症状・徵候とその病態生理 IV-3 検査と治療・処置 血液造血機能を障害されている人の理解 V-1 血液・造血疾患の理解 V-2 症状・徵候とその病態生理 V-3 検査と治療・処置		
評価方法	1. レポート 2. 筆記試験 3. 出席点を加味する		
テキスト	系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学(6)内分泌・代謝』医学書院 系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学(1)アレルギー・膠原病・感染症』医学書院 系統看護学講座『専門Ⅱ、成人看護学(4)血液・造血器』医学書院		
備考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	看護学科
科目名	疾患と治療IV(運動・感覚機能障害) 30時間(10-20)・1単位	教員名	村上 昌穂・青木 清
概要及び目的	人体の解剖生理などの基礎知識をもとに、疾病の種別、その原因を知り、それぞれの症状の特徴を把握し、臨床の基礎を習得する。内科的治療を受ける患者の各系統の疾患別に必要な諸検査の方法と診断の根拠を知り、治療法の内容を学び、臨床での実践を効果的なものとする。運動器における健康障害のある対象者を理解するために、運動器特有の症状と病態生理、診断・検査と治療・処置、また代表的な疾患の理解をする。		
授業内容	<p>I 運動機能を障害されている人の理解 (10時間) 青木</p> <p>I-1 疾患の理解</p> <p>1) 外傷性(外因性)の運動器疾患</p> <p>2) 非外傷性(内因性)の運動器疾患</p> <p>I-2 症状とその病態生理</p> <p>I-3 診断・検査と治療・処置</p> <p>II 神経・感覚機能を障害している人の理解 (20時間) 村上</p> <p>II-1 神経・感覚機能疾患の理解</p> <p>II-2 症状・徵候とその病態生理</p> <p>II-3 検査と治療・処置</p>		
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト	系統看護学講座『専門II、成人看護学(7)脳・神経』医学書院 系統看護学講座『専門II、成人看護学(10)運動器』医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	治療論Ⅰ(臨床栄養学・リハビリテーション論) 30時間(15-15)・1単位	教員名	清水 憲二・安藤 泰司 他
概要及び目的	<p><臨床栄養学></p> <p>栄養は生命維持・成長発達に不可欠な要素であるが、病気や障害をもつ人にとってはさらに重要な要素となる。医療従事者に必要な臨床栄養学の基礎知識と、その知識をふまえ実際の対象にどう応用していくかを学ぶ。健康増進、健康障害の治療、食事治療の実際について学習する。</p> <p><リハビリテーション論></p> <p>リハビリテーションの概念や基本原則、現状等をとおし、多様な社会資源を有効に活用援助できる知識や技術を学ぶ。</p>		
授業内容	<p><臨床栄養学> (15時間) 清水</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床栄養学の基礎知識 2. 日常生活と栄養 3. 療養生活と栄養 4. 食事指導の実際 <p><リハビリテーション論> (15時間) 安藤他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション概論 2. 理学療法について 事例紹介 3. 作業療法について 事例紹介 4. 言語聴覚療法について 事例紹介 5. リハビリテーション分野における臨床心理士の役割について 6. 理学療法トピックス 車いすについて 7. 作業療法トピックス 支援技術と機器の利用について 		
評価方法	<p><臨床栄養学></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 <p><リハビリテーション論></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポート 2. 筆記試験 3. 出席点 		
テキスト	臨床栄養学：「臨床栄養学」メディカ出版 リハビリテーション論：資料配布		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	治療論Ⅱ(がんの治療) 15時間・1単位(治療論Ⅱ全体)	教員名	高間 雄大
概要及び目的	がんの主な治療法および緩和医療について理解する。		
授業内容	<p>総論 癌の疫学・特性・栄養 インフォームドコンセント・EBM 癌の治療に必要な統計学的用語</p> <p>各論 癌治療の実際 • 手術療法 • 化学療法 • 放射線療法</p> <p>緩和医療 • 緩和ケアとは • 終末期に大切にしたいことについて(アンケートより) • WHO方式がん疼痛治療法について</p>		
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト			
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	治療論Ⅱ(周手術期の治療) 15時間・1単位(治療論Ⅱ全体)	教員名	吉田 和弘 他
概要及び目的	回復過程の生体反応の知識を基盤として治療や栄養補給に関する原則を理解する。 周手術期の治療の概観を理解する。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・手術侵襲と生体反応・麻酔法 全身麻酔：麻酔器・マスク・気管挿管・吸入麻酔・静脈麻酔・バランス麻酔 局所麻酔：脊髄ケモ下麻酔・硬膜外麻酔 ・手術期器械、設備類手術用機器：電気メス・レーザー手術装置 ・モニター (循環器系モニター呼吸器系モニター筋弛緩モニター) 体温測定(直腸温・口腔、咽頭温・鼓膜温・膀胱温) ・酸素療法・機械的人工換気(人工呼吸器) ・周手術期の輸液管理・栄養管理 ・輸血療法 ・手術前管理：循環器系・呼吸器系・消化器系・血液、凝固系・内分泌系各検査(胸部X線、呼吸機能検査、血液一般、生化学、血糖値、感染症、血液型、心電図) ・術後の疼痛管理 ・術後合併症とその予防 		
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と成人の周手術期看護 1 外来／病棟における術前看護 医歯薬出版 ・高齢者と成人の周手術期看護 2 術中／術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 ・系統看護学講座別巻「臨床外科看護総論」医学書院 		
備考			

年次・学期	1 年次・前期	担当科	看護学科
科目名	臨床心理学 15 時間・1 単位	教員名	鈴木 晶子
概要 及び 目的	本講義では、人の心の問題を解決するための理論や技法について学習する。看護職として対人援助を実際に行うために必要とされる技術を、臨床心理学の基礎理論と心理学的援助の方法から学ぶ。授業では、講義のほか、演習も適宜行う。自らが体験することを通じて自己理解を深めるとともに対人専門職に必要とされる人間理解のあり方を知る。		
授業内容	1. 臨床心理学とは何か 2～3. 心理検査について 4～5. 精神疾患とその特性について 6～7. 心理療法について		
評価方法	1. 試験 2. 出席		
テキスト	資料配布		
備考			

年次・学期	1年次・通年	担当科	看護学科
科目名	臨床薬理学 45時間・2単位	教員名	千堂 年昭
概要及び目的	<p>患者さんの診療において診断と治療は2本の柱である。治療には内科的薬物療法、外科的手術療法、放射線療法などがあり、病気によってそれぞれの方法が適切に選択される必要がある。いずれの病気においても薬物療法の果たす役割が大きいことは言うまでもない。そのために看護業務においても医薬品との関わりは多く、その使用にあたっては十分な知識を必要とする。</p> <p>薬理学では薬物に関する基礎的な知識、各疾患において使用される代表的な薬物の種類、効果と副作用、作用機序、薬物動態からみた相互作用等を学習し、看護業務において医薬品の適正使用に対応できる実践的な知識を身につけられるように講義を進める。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理学の概念（薬とは何か。医薬品と法令） 2. 薬の投与経路 3. 薬はどのように作用を発揮するか 4. 薬のからだの中での動きと影響を及ぼす因子 5. 薬効に影響を及ぼす因子 6. 薬害、妊婦・授乳婦への薬物治療、新薬の開発 7. 感染症治療薬 8. 抗がん薬 9. 免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬 10. 自律神経作用薬 11. 中枢神経作用薬 12. 抗高血圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬 13. 抗不整脈薬、高脂血症治療薬、血液に作用する薬物 14. 呼吸器系・消化器系作用薬 15. 生殖器系作用薬、糖尿病治療薬 16. 甲状腺疾患治療薬、下垂体ホルモン、骨粗鬆症治療薬 17. ビタミン、皮膚科用・眼科用治療薬 18. 救急薬、急性薬物中毒の処置法 19. 消毒薬 20. 検査薬・診断薬、漢方薬 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席点 10点 2. 小テスト 20点 3. 筆記試験 70点 		
テキスト	系統看護学講座『専門基礎5. 疾病のなりたちと回復の促進(2)薬理学』医学書院		
備考	授業中の質問は歓迎する 私語は厳禁		

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	微生物学と感染症 30時間・1単位	教員名	篠田 純男・野田 泰子
概要及び目的	近年、新しく発見された微生物による感染症や、結核に代表されるような、忘れがちになっていた感染症の再発が社会的に問題になっている。起炎菌や社会環境の変化、患者の人権の問題も含めて、感染症を引き起こす微生物の基礎知識を学ぶとともに、患者の安全や感染予防の重要性に照らし、予防と対策について正しい知識と態度を学ぶ。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の歴史、分類、形態（構造） 2. 微生物の増殖と遺伝 3. 感染と発症（免疫） 4. 細菌学各論 5. 真菌学 6. ウィルス学総論と各論 7. 微生物感染対策 8. まとめ（食中毒、S T Dなど） 		
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト	小熊 恵二『コンパクト微生物学』南江堂		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	医療と法 15時間・1単位	教員名	藤田 有香・監物 英男 寺岡 仁子
概要及び目的	看護職員が業務を遂行する上において、基本的な知識と法律の概要、各種の関係法規、看護・看護活動に関連した関係法規を学習することで、与えられた職責を正しく遂行できることをねらいとする。		
授業内容	I. 法の概念（寺岡） <ul style="list-style-type: none"> 1. 法の概念 2. 法の分類 3. 衛生法 4. 厚生行政のしくみ II. 医事法（藤田） <ul style="list-style-type: none"> 1. 医師法・医療法 <ul style="list-style-type: none"> ・医師法 ・医療法 2. 医療関係資格法 3. 保健福祉関係資格法 等 III. 薬務法（監物） <ul style="list-style-type: none"> 1. 医薬品 <ul style="list-style-type: none"> ・薬事法 等 2. 毒物等 <ul style="list-style-type: none"> ・毒物及び劇物取締法 ・麻薬及び向精神薬取締法等 IV. 労働法と社会基盤整備（寺岡） <ul style="list-style-type: none"> 1. 労働法 <ul style="list-style-type: none"> ・労働基準法 ・労働安全衛生法 等 2. 社会基盤整備等 <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画社会基本法 ・次世代育成支援対策推進法 等 V. 環境法（藤田） <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全の基本法 等 		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座10 看護関係法令 医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	健康支援の保健活動 15時間・1単位	教員名	梶尾 厚子
概要及び目的	社会保障の一環として、国民全体を対象とした人々の健康はどのように守られているのか、公衆衛生的な視点で基本的な知識を学習する。特に社会の動向に関連して人々の健康課題に地域保健活動（公衆衛生活動）がどのように進められているか、行政の役割や他機関、他職種との連携や協働活動を学び、人々の健康を支援する活動を学習する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の意義 2. 健康に関する指標 3. 疫学的方法による健康の理解 4. 感染症とその予防 5. 公衆衛生の視点で進める保健活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 産業保健 2) 地域保健 3) 環境保健 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 出席点、受講態度も加味する 		
テキスト	わかりやすい公衆衛生学 第4版 ヌーベルヒロカワ 国民衛生の動向：厚生統計協会		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	社会福祉論 講義・1単位	教員名	高才 彰
概要 及び 目的	<p>看護と社会福祉・社会保障の共通する対人援助概念として「ウェルビーイング」がある。昨今の看護現場の拡大は対象者とその生活をアセスメントし、社会福祉・社会保障の知識を活用し「ウェルビーイング」の実現を図ることが求められている。</p> <p>授業では看護において必要な社会福祉・社会保障の制度や法体系、サービス内容等の基本的な知識を習得し、さらに対象者の「ウェルビーイング」をケアマネジメントする基礎的な応用力を身に付けることを目標とする。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 2. 医療保障（健康保険と国民健康保険） 3. “ （老人保健制度・保険診療の仕組み） 4. 介護保障（介護保険制度の概要） 5. “ （介護サービスの概要） 6. 所得保障と公的扶助 7. 社会福祉の分野とサービス、看護との連携 8. 試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験の点数 2. 授業内小テストの点数 		
テキスト	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉」 (第18版) 医学書院 ISBN978-4-260-02856-1</p>		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	障がい者福祉論 講義・1単位	教員名	赤木 剛
概要 及び 目的	障がい者は日々の生活を送る上で様々な困難を伴うことが多いが、それらを和らげ、障がい者の暮らしを支えるために、多くの法律や制度が定められている。そのため、障がい者のもつ様々なニーズについて考え、看護師として障がい者を支えていく上で必要となる法律や制度について学ぶ。		
授業内容	1. 障がい者の定義と実態 2. 障がい者福祉の理念 3. 障がい者福祉制度の変遷 4. 障がい者自立支援制度と障害者総合支援法（1） 5. 障がい者自立支援制度と障害者総合支援法（2） 6. 障がい者福祉の関連施策 7. 障がい者の生活を支える所得保障制度 8. 試験		
評価方法	1. 試験 2. 出席点、レポート提出などを加味する		
テキスト	必要に応じて資料を配布 『系統看護学講座 専門基礎9 社会保障制度と生活者の健康(3) 社会福祉』医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	医療安全 30時間・2単位	教員名	岩本 美代子・松田 真哉
概要及び目的	医療・看護が安全に提供されるためには、日常における組織的な事故防止活動と医療事故発生時の対応が最も重要である。看護師の業務における様々な事故の構造と、根拠に基づく具体的な知識により事故を回避し、安全で質の高い看護実践活動を学ぶ。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の歴史 2. 医療安全の歴史と医療、看護を取り巻く状況 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師および看護業務の法的な規定 2) 医療安全で用いる用語の定義 3) 医療安全にかかわる近年の看護職を取り巻く状況 3. 医療安全に関する国の取り組みとその経緯 4. 医療安全の概念 5. 医療安全に対する最近の動向・考え方 6. 看護現場で起こりうる医療事故を学ぶ 7. ミスを防ぐための対策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習の場面に潜む危険を予測する—(K Y T) 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプの目的と使用における危険を知る 8. 看護現場で起こりうる医療事故を学ぶ 9. 院内感染を防止する視点からの医療安全 10. 医療事故後の対応 11. 看護学実習における医療安全、医療安全報告書 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポート・提出物 2. 出席点・受講態度を加味する 3. 筆記試験 		
テキスト	医療安全～患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力～ Gakken		
備考			

年次・学期	1年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	看護学概論 30時間・1単位	教員名	双田 清美・定金 直美
概要及び目的	<p>看護の対象となる人は、年齢や育った環境、価値観や人生観など一人ひとり異なる。その対象者に応じた看護を提供するためには、様々な知識、判断力、看護実践力が必要となる。</p> <p>看護学概論は、入学してはじめて看護について考える科目である。この科目では、看護師として問い合わせ続けるであろう「看護とは何か、また、看護師とはどのような職業なのか」を探求し、看護師を志す者としての基本的な姿勢や看護の考え方を学ぶ。</p>		
授業内容	<p>(担当: 双田)</p> <ol style="list-style-type: none"> 学院内の自然に触れ五感をとおして観察し、看護にとっての観察の重要性を理解する。 パフォーマンス課題の解決に向けて、看護の「人間」「健康」「環境」「看護」の概念を考えるための視点を理解する。 看護理論家の考え方を知り、「看護」とは何かの課題を解決するための情報を得て自分の考え方の視野を広げる。 「人間」「健康」「環境」「看護」の4つの概念の考え方を理解し、自分の考えに活用する。 パフォーマンス課題の解決に向けて作成した資料を元に相互評価し、看護の視点を広げる。 中間試験 <p>(担当: 定金)</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門看護師、認定看護師制度の設立や内容が理解できる。 専門職としての看護教育制度がどのように生まれたのか理解できる。 保健師助産師看護師法から、看護師の定義や業務の範囲について理解する。 診療の補助行為としての特定行為を実施できる制度の内容を理解する。 介護福祉士や他の医療関係職の業務内容を理解する。 パフォーマンス課題に取り組み、自分の考えを明確にできる。 パフォーマンス評価を通して、専門職である看護師の視点を明確にできる。 終講試験 		
評価方法	筆記試験（中間・終講）、レポート、出席状況で総合的に判断する		
テキスト	<p>系統看護学講座『専門分野I 看護学概論』医学書院 ナイチンゲール『看護覚え書』現代社 『ナイチンゲールの看護の覚え書』西東社 ヘンダーソン『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会</p> <p>参考文献：講義の中で適宜紹介する。必要時、資料提供する。</p>		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	看護研究理論 30時間・1単位	教員名	大森 和子
概要及び目的	看護を科学的に考え実践する能力を身につけるために、看護における研究の意義と必要性、および研究の基礎的知識について学習する。さらに、看護研究に取り組み、看護の場に生じている現象を、科学的に分析し、自己洞察することにより、看護のあり方を考える。また、看護について探求する態度・自己研鑽していく姿勢を養う。		
授業内容	1. 看護研究とは 2. 研究における倫理的配慮 3. 研究と理論 4. 研究計画書の意義 5. 文献検索の方法 6. 看護研究の種類（事例研究・調査研究・文献研究など） 7. 看護研究の方法と進め方		
評価方法	1. レポート （文献の読解プリント） 2. レポートの提出期限、内容・出席点・受講態度で評価する。 3. ミニテスト（授業内容ポイントについて）		
テキスト	「ひとりで学べる看護研究」照林社 必要時資料配布		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	看護研究の実際 15時間・1単位	教員名	看護学科教員
概要 及び 目的	看護研究に取り組み、看護の場に生じている現象を、科学的に分析し、自己洞察することにより、看護のあり方を考える。さらに看護について探求する態度・自己研鑽していく姿勢を養う。		
授業内容	<p>1. 看護研究の実際</p> <p>1) 研究テーマの決定</p> <p>2) 文献検索</p> <p>3) 論文作成</p>		
評価方法	看護研究を総合してまとめ、担当教員が評価する。		
テキスト	「ひとりで学べる看護研究」 照林社		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	看護の基本となる技術 30時間・1単位	教員名	看護学科教員
概要及び目的	<p>看護を学ぶにあたって、看護技術の考え方を理解する。 また、感染予防、報告・連絡・相談、リフレクションなど看護実践の基本となる技術を身につける。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術を学ぶにあたって <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学の位置づけ ・看護技術の位置づけ ・看護技術を学ぶとは ・実習室の使用時の準備（服装・実習室の使用の仕方） 看護技術の基本原則（安全・安楽・自立・個別性） 2. 安全を守る技術 感染を防止する技術① 標準予防策　・手洗い 3. 安全を守る技術 感染を防止する技術② 個人の防護策、感染経路別予防対策 バイオハザードマーク 4. 安全を守る技術 演習（手洗いバグ、手袋、エプロンの着用など） 5. 安全を守る技術 四種抗体検査・B型肝炎ワクチン接種の目的 抗体価の結果の判断とワクチン接種計画 6. 根拠を裏付けるための文献活用方法 著作権の利用のルール 7. 報告・連絡・相談の重要性 8～14. リフレクション 15. 終講試験 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 必要に応じレポート 		
テキスト	系統看護学講座 専門2『基礎看護学(2)基礎看護技術 I』 医学書院 系統看護学講座 専門2『基礎看護学(3)基礎看護技術 II』 医学書院		
備考			

年次・学期	1 年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	生活行動を支える技術Ⅰ(生活環境と活動) 30 時間・1 単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	健康的な日常生活を促進する援助技術（生活環境・活動・休息）を学び、対象の理解と安全安楽な看護実践の基礎となる、知識・技術・態度・倫理的判断の基礎を身につける。		
授業内容	<p>* 授業形態は、講義と演習ですすめています</p> <p>1. 活動・休息の援助技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動、休息を支えるためのアセスメント視点 ・看護師がおこなう活動、休息援助の意義 ・活動、休息を支える援助技術の実際 <p>2. 環境を整える援助技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療養生活を支えるために必要なアセスメント視点 ・看護師が環境を整える意義 ・環境を整える援助技術の実際 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 校内演習態度 3. 事前学習への取り組み、提出状況 		
テキスト	系統看護学講座 専門2 『基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ』 医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	生活行動を支える技術Ⅱ(セルフケア) 45時間・1単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	健康的な日常生活を促進する援助技術（食事、排泄、清潔・衣生活）を学び、対象の理解と安全安楽な看護実践の基礎となる、知識・技術・態度・倫理的判断の基礎を身につける。		
授業内容	<p>* 授業形態は、講義と演習ですすめています</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食べることへの援助技術 <ul style="list-style-type: none"> ・食べることを支えるためのアセスメント視点 ・看護師がおこなう食事援助の意義 ・食事援助の実際（演習） 2. 排泄への援助技術 <ul style="list-style-type: none"> ・自然排泄をうながすためのアセスメント視点 ・看護師がおこなう排泄援助の意義 ・排泄援助の実際（演習） 3. 清潔への援助技術 <ul style="list-style-type: none"> ・患者の状態に応じた清潔援助を支えるためのアセスメント視点 ・看護師がおこなう清潔援助の意義 ・清潔援助の実際《衣生活の援助も含む》（演習） 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 校内演習態度 3. 事前学習への取り組み、提出状況 		
テキスト	系統看護学講座 専門2『基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ』 医学書院		
備考			

年次・学期	1 年次・前期・後期	担当科	看護学科
科目名	基礎看護技術演習 30 時間・1 単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	対象を理解し、複数の看護技術を用いて対象の状態に応じた方法を選択し、倫理的判断に基づいた実践ができるための基礎的能力を養う。さらに対象との関わり方を考えるとともに安全・安楽・自立の視点をもって実践できる。		
授業内容	1. 日常生活行動を支える技術試験Part 1（環境を整える技術） 2. 日常生活行動を支える技術試験Part 2（日常生活援助技術）		
評価方法	1. 筆記試験 2. 技術試験 3. レポート 4. 校内実習態度		
テキスト			
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	対象を把握するための技術 30時間・1単位	教員名	看護科教員
概要及び目的	対象の身体状況を把握するためのフィジカルアセスメント技術の基礎を身に付ける。		
授業内容	<p>1. 生命徵候をみるためのバイタルサイン 1) 「意識」を観察する目的・方法 2) 「呼吸」を観察する目的・方法 3) 「脈拍」を観察する目的・方法 4) 「血圧」を観察する目的・方法 5) 「体温」を観察する目的・方法</p> <p>2. バイタルサイン測定と結果の判断</p> <p>3. ヘルスアセスメントとは 1) ヘルスアセスメントの意義と目的 2) ヘルスアセスメントに必要な技術（問診、視診、触診、聴診、打診）</p> <p>4. ヘルスアセスメントの実際 1) 全体を概観する（健康歴の聴取、バイタルサインの観察とアセスメント、計測） 2) フィジカルアセスメントとは 3) 問診技術の基本 4) 系統別にフィジカルアセスメントを実践する (1) 呼吸器系 (2) 循環器系 (3) 消化器系</p>		
評価方法	1. 筆記試験 2. レポート 3. 校内実習態度		
テキスト	系統看護学講座 専門2 『基礎看護学(2)基礎看護技術 I』 医学書院		
備考	参考図書：フィジカルアセスメントがみえる MEDIC MEDIA		

年次・学期	1 年次・前期	担当科	看護学科
科目名	看護を展開するための技術 30 時間・1 単位	教員名	看護科教員
概要及び目的	看護を科学的に思考するためのプロセスを身に付ける。		
授業内容	1. 看護過程とは 1) 看護過程の 5 つの構成要素 2) 5 つの構成要素の関係性 2. 看護過程展開の基盤となる考え方 1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) 情報分析の方法 4) 倫理的配慮と価値判断 3. 看護過程の各段階 1) アセスメント（情報の収集と分析） 2) 看護問題の明確化（看護の必要性） 3) 看護計画 4) 実施 5) 評価 4. 看護記録 5. 事例展開（演習）		
評価方法	1. 筆記試験 2. 演習態度 3. レポート		
テキスト	系統看護学講座 専門 2 『基礎看護学(2)基礎看護技術 I』 医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	健康の回復を支える技術Ⅰ(症状・経過に伴う技術) 30時間・1単位	教員名	看護科教員
概要及び目的	主要な症状を示す対象者に必要な看護を実践するための基礎的知識・技術を学ぶ。		
授業内容	<p>1. 主要な症状を示す対象者への看護</p> <p>1) 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>2) 循環に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>3) 排泄に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>4) 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護</p> <p>5) 安楽に関連する症状を示す対象者への看護</p>		
評価方法	<p>1. 筆記試験</p> <p>2. 校内実習態度</p> <p>3. レポート</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門2『基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ』 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻17『臨床看護総論』 医学書院</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	健康の回復を支える技術Ⅱ(診断・治療・処置に伴う技術) 30時間・1単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	健康状態の経過に基づいた看護の考え方を理解し、治療・処置をうける対象者への看護を実践するための基礎的知識・技術を学ぶ。		
授業内容	<p>1. 健康状態の経過に基づく看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 急性期における看護 2) 慢性期における看護 3) リハビリテーション期における看護 4) 終末期における看護 <p>2. 治療・処置をうける対象者への看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 輸液療法をうける対象者への看護 2) 創傷処置／創傷ケアをうける対象者への看護 3) 身体侵襲を伴う検査・治療をうける対象者への看護 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 校内実習態度 3. レポート 		
テキスト	系統看護学講座 専門2『基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ』 医学書院 系統看護学講座 別巻17『臨床看護総論』 医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	看護の基本となる実習 I 45時間・1単位	教員名	看護科教員
概要及び目的	看護の対象を理解し、健康を支える環境とは何か、また看護とは何かについて理解する。また、看護実践をとおして、看護の役割と責務を理解する中で日常生活援助の重要性を学ぶ。		
授業内容	<p style="text-align: center;">看護の基本となる実習 I - (1) (看護を知る)</p> <p>【目標】 対象者とのかかわりをとおして、看護師がおこなう観察の意義と対象者を取り巻く環境を整えることの意義について学ぶ。</p> <p>【実習のねらい】 対象者の生命を守り、健康と生活を支え、対象者を取り巻く環境を最良の状態に整えることは看護師の役割である。また、そのためには五感をつかって観察し、観察した結果を看護に活かす力が必要となる。 看護の基本となる実習 I - (1)では、看護師と共に看護に参加し、できることを実践しながら、看護師がおこなう観察の意義や環境を整えることの意義について理解することを目指す。さらに、体験したことをリフレクションし探求的に学習することを目指す。</p> <p style="text-align: center;">看護の基本となる実習 I - (2) (日常生活援助方法を知る)</p> <p>【目標】 看護師とともにできる範囲の看護実践をとおして、入院治療を必要とする対象者の健康状態を整える[*]ために、看護師がおこなう日常生活援助の意義について理解する。</p> <p>【実習のねらい】 看護師とともに、入院治療を必要とする対象者への日常生活援助をとおして、入院治療が日常生活へ及ぼす影響を考えながら、健康状態を正確に観察し、観察した結果を判断した上で、対象者が健康な時におこなっていた方法により近づけた援助を学び、看護師がおこなう日常生活援助の意義を理解する。</p> <p>* 健康状態を整えるとは、対象が本来もつ自然治癒力を發揮しやすい環境を整え、健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を目指すことである。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> • 60点以上を合格とし、不合格者は1回のみ再実習が可能である。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 一次評価 <ul style="list-style-type: none"> • 評価基準をもとに、実習指導者、教員でおこなう。 2) 最終評価 <ul style="list-style-type: none"> • 実習指導者の意見も含め、評価基準表をもとに学生と教員が評価する。 • 合格の可否は審議し、決定する。 		
テキスト	看護の基本となる実習 I - (1)、I - (2) の要領		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	看護の基本となる実習Ⅱ 90時間・2単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	入院治療を必要とする対象者の健康の回復を支えるために必要な看護を学ぶ。		
授業内容	<p>【目標】 健康状態が生活に及ぼす影響を考えながら、観察した結果を基に健康状態を整えるために必要な看護を判断し実践するための思考プロセスを理解する。</p> <p>【実習のねらい】 健康状態が生活に及ぼす影響を考えながら、対象者の健康状態を整え、よりよい生活に向かうために支援することは看護の役割である。そのためには生活者としての対象を理解し、看護の視点でとらえた情報や観察をもとに、現れている事実を読み取り整理し、知識を活用しながら、健康状態を整えるために必要な看護を判断し実践することが必要となる。</p> <p>看護の基本となる実習Ⅱでは、健康状態が生活に及ぼす影響を考えながら、観察した結果を基に健康状態を整えるために必要な看護を判断し実践するための思考プロセスの理解を目指す。そのため、対象者を1名受け持ち、五感と情報を手がかりに対象者の健康状況に応じた観察視点と系統的観察、方法を判断し、観察した結果をもとに、症状と病態、観察結果の一貫性、矛盾を確認したうえで、看護上の問題を明らかにし、優先順位を考えながら、対象者の状態に応じた看護を実践する。また、実践した看護をリフレクションし探求的に学習することで経験から学ぶ力を身につける。さらに、他者との関わりをとおして自分の思いや考えを主体的に表現することの重要性を理解し、チームの一員としてどのように行動すべきかを考え、看護の役割と機能について学ぶ。</p>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 60点以上を合格とし、不合格者は1回のみ再実習が可能である。 実習指導者の意見も含め、評価基準表をもとに学生と教員が評価する。 合格の可否は審議し、決定する。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 基礎看護実習Ⅱの要項 自己学習ファイル 各教科教科書・参考書 		
備考			

年次・学期	1年次・前期～後期	担当科	看護学科
科目名	成人看護学概論 30時間・1単位	教員名	山下 純子・都甲 裕美
概要及び目的	<p>成人期にある人の成長・発達について、ライフステージと健康生活の観点から理解し、成人期にある人の特性、社会とのかかわり、健康問題とその特徴について学ぶ。</p> <p>成人の特性や能力に応じたアプローチの方法を理解する。</p> <p>わが国における保健問題の動向と保健対策の現状を、さまざまな指標によって理解し、成人期における疾病の予防対策と健康の保持・増進に向けたアプローチの方法について、看護の役割と関連づけながら学習する。</p> <p>健康レベルの変化の特徴に応じた成人期にある患者とその家族への看護を学習する。</p>		
授業内容	<p>(担当: 山下) 15H</p> <p>1. 成人の生活と健康</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 成人の特徴 2) 成人の生活状況の特徴 3) 成人に特有な健康問題の特徴 <p>2. 成人への看護アプローチの基本</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 成人教育学 2) エンパワメントエデュケーション 3) 自己効力 4) ストレスコーピング 5) セルフマネジメント <p>(担当: 都甲) 15H</p> <p>3. 健康レベルの変化に応じた成人期にある患者と家族への看護</p> <p>生命危機状態・手術を受ける患者の看護 身体機能回復を目指す人の看護 生活習慣の改善を必要とする人の看護 緩和ケアを必要とする人の看護</p>		
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト	系統看護学講座『専門Ⅱ 成人看護学(1)成人看護学総論』医学書院 系統看護学講座『専門Ⅰ 臨床看護総論』 国民衛生の動向 その他: 資料配布		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	生命危機状態・手術を受ける人への看護 30時間・1単位	教員名	上浦 弘美・山下 敬子 他
概要 及び 目的	生命危機状態・手術を受ける人への看護援助について学ぶ。 循環機能障害を持つ患者をとりあげ、生命危機状態にある患者の特徴と看護について学ぶ。		
授業内容	<p>1. 生命危機状態・手術療法を受ける人の看護 (上浦)</p> <p>手術侵襲と生体反応</p> <p>周術期看護の概念</p> <p>全身麻酔で手術を受ける患者の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・術前評価と手術を受ける患者の看護 ・術中患者の看護 ・術後合併症のリスクアセスメントと予防 <p>局所麻酔で手術をうける患者の看護</p> <p>救急看護の基礎</p> <p>2. 循環機能障害をもつ患者への看護 (山下 他)</p> <p>症状と看護 (胸痛、動悸、浮腫、失神)</p> <p>検査と看護 (心電図、結構動態)</p> <p>治療、処置と看護 (薬物療法、心臓カテーテル法)</p> <p>虚血性心疾患患者の看護 (狭心症、心筋梗塞)</p> <p>心不全患者の看護</p> <p>ペースメーカー装着した患者への看護</p>		
評価方法	1. 出席点、遅刻、早退、受講態度の総合で評価する。		
テキスト	使用しない。 必要に応じてプリントを配布		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	身体機能の回復を目指す人への看護 30時間・1単位	教員名	都甲 裕美・浅越 博之
概要及び目的	脳・神経／運動器疾患によりさまざまな身体機能に障害をきたし、身体機能の回復を目指す人の看護援助について学ぶ。		
授業内容	<p>1. 脳・神経機能障害をもつ患者への看護 (都甲) 症状と看護（頭痛・意識障害・高次脳機能障害・運動麻痺） 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 神経学的検査（神経機能のフィジカルアセスメント） 補助的検査と看護（CT・MRI・髄液検査・脳血管撮影） 脳梗塞患者の看護</p> <p>2. 運動機能障害をもつ患者への看護 (浅越) 症状と看護（疼痛・変形・機能障害） 治療と看護（牽引療法・ギプス包帯法） 運動機能検査（運動機能のフィジカルアセスメント） •補助的検査と看護（脊髄造影検査） •経過に応じた看護（回復期のリハビリテーション・生活の調整） 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護</p>		
評価方法	1. 筆記試験 2. 出席点 3. 提出物		
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学〔10〕運動器 医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	生活習慣の改善を必要とする人への看護 30時間・1単位	教員名	山本 美穂子・細川 善美 他
概要 及び 目的	生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人への看護援助について理解する。 糖代謝障害、排泄機能障害をもつ患者をとりあげ、生涯にわたりコントロールを必要とする患者のセルフケアの獲得に向けた看護の役割と方法を学ぶ。		
授業内容	<p>1. 内分泌・代謝障害をもつ患者への看護 細川 他 血糖、尿糖の測定法 肥満度 摂取・消費エネルギーの算出 身体所見 血液・尿検査 神経学的所見の正常性 障害の原因と程度 心身・日常生活への影響 糖尿病の合併症予防の生活指導 インスリン療法 経口糖尿病薬の作用・副作用・服薬指導 インスリン自己注射の指導 糖尿病の食事療法・運動療法の指導</p> <p>2. アレルギー・膠原病患者の看護 アレルギーの分類と看護 全身性エリテマトーデス (SLE) ・関節リウマチ患者の看護</p> <p>3. 感染症患者の看護 日和見感染症 結核患者の看護 ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染症患者の看護</p> <p>4. 排泄（腎）機能障害をもつ患者の看護（尿検査、腎機能検査、腎生検） 山本 他 •腎臓の機能症状とその病理生理（尿の異常、排尿に関連した症状、水と電解質の異常、血液の異常、尿毒症） •検査を受ける患者の看護（尿検査、腎機能検査、腎生検） •慢性腎臓病（CKD）の診断基準と重症度分類、慢性腎臓病（CKD）の病期に応じた生活指導、セルフマネジメントを促す看護 •透析療法の適用基準と選択 血液透析・腹膜透析の管理 シャントの管理と患者指導 維持透析の生活指導</p>		
評価方法	<p>1. 筆記試験 2. 出席点・受講態度 3. レポート</p>		
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学〔11〕アレルギー、膠原病、感染症 医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	緩和ケアを必要とする人への看護 30時間・1単位	教員名	山本 美穂子
概要及び目的	<p>緩和ケアを必要とする人を主として、呼吸、機能障害をもつ患者をとおして検査・治療の看護、症状の緩和に向けた看護を学ぶ。</p> <p>緩和ケアを必要とする人が安らかな死を迎え、その人らしい人生を送るための援助方法を理解する。また、家族への援助の必要性を理解する。</p> <p>人間の生と死について考え、自己の死生観を養い、終末期の看護を学ぶ。</p> <p>移植医療に関する学習を通じて、血液・造血機能障害をもつ患者の看護を理解する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアを必要とする人への看護 終末期患者のニーズ（身体的、心理的、社会的、発達段階的） 緩和ケア（苦痛のアセスメント 疼痛コントロール QOLの保証 悲嘆のケア） 家族への援助 終末期看護における倫理 2. 呼吸機能障害をもつ患者の看護 呼吸器系の構造と機能 症状と看護（喀痰・血痰・喀血、呼吸困難） 肺機能検査 動脈血ガス分析値の正常性 換気障害 ガス交換障害の程度・分類・原因 気管支鏡検査を受ける患者の看護 胸腔穿刺を受ける患者の看護 呼吸困難時の安楽な体位 咳痰喀出困難時の肺物理学療法 肺がん患者の看護 3. 白血病患者の看護 造血幹細胞移植を受ける患者の看護 臓器移植時の倫理的配慮 （血液のはたらき、造血のしくみ、止血機構、輸血、骨髓穿刺 貧血・出血傾向・易感染状態にある患者の看護） 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 出席点・受講態度 3. レポート 		
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 成人看護学〔1〕成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学〔4〕血液・造血器 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学⑦ 緩和ケア メディカ出版		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	成人看護を展開するための技術 30時間・1単位	教員名	寺岡 仁子・清水 恵子
概要及び目的	<p>消化器（主として脾臓・肝臓・胆道系）疾患を持つ患者を通して、検査・治療の看護、症状の緩和に向けた看護を学ぶ。</p> <p>消化器疾患を持つ患者に対して各場面での（検査・治療・退院時など）、説明を行うことができる。</p> <p>栄養代謝障害をもつ患者をとおして、検査・治療の看護、症状の緩和に向けた看護を学ぶ。</p> <p>消化器障害をもつ患者に対しての、術前術後を通しての看護を学ぶ。</p>		
授業内容	<p>(担当: 寺岡) 15H</p> <p>1. Introduction (統計含む) 2. 解剖・生理 肝臓・胆道系・脾臓を中心に 3. 症状・病態生理 肝臓・胆道系・脾臓を中心に 1) 症状・病態生理など 2) 症状・病態生理に対しての看護 4. 診察・検査 肝臓・胆道系・脾臓を中心に 1) 診察・検査 2) 診察・検査に対しての看護 5. 治療 肝臓・胆道系・脾臓を中心に 1) 薬物療法、栄養・食事療法、放射線療法について 2) 薬物・化学療法、栄養・食事療法、放射線療法を受ける患者の看護 6. 疾患 1) 肝臓の疾患について ①肝炎 ②肝硬変症 ③門脈圧亢進症 ④肝不全 ⑤肝がん 2) 肝臓疾患の患者の看護 ①肝炎 ②肝硬変症 ③食道動脈瘤 ④肝がん ③胆道系 ①胆囊炎、胆管炎 ②胆管がん ③胆囊がん ④胆道系疾患の患者の看護 ①胆囊炎 ②胆石発作 ③胆汁ドレナージ ⑤脾臓 ①脾炎 ②脾臓がん ⑥脾臓疾患の患者の看護 ①脾炎 ②脾臓がん 他</p> <p>(担当: 清水) 15H</p> <p>消化器症状をもつ患者への看護（周手術期の患者看護）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消化器疾患に関する医療の動向や身体的・社会的問題および精神的問題を考察する ・患者の特徴をふまえて援助の特徴と家族支援の重要性を学ぶ ・症状・徵候の特徴とその病態および他臓器疾患との関連について理解する ・診察と診断の方法について、検査の意義・目的・実施法・適応疾患について理解を深める ・治療処置の基本的な考え方をふまえ各治療法の概要と適応疾患について学ぶ ・主な消化器疾患について分類・原因・症状・診断・治療などの理解を深め消化器疾患を看護する必要な知識を学習する ・内科的・外科的治療の両面から治療と看護の理解を行い、手術を受ける患者の看護について学ぶ ・急性期・慢性期・回復期・終末期の4期に分け、それぞれの経過に応じた看護援助の内容を概括し、継続看護の意義について理解を深める ・人工肛門患者の看護 ・事例を通して看護展開ができるようになる 		
評価方法	<p>1. 筆記試験 2. 出席状況他</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 第2版 医歯薬出版 高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第2版 医歯薬出版</p>		
備考	<p>1年次 該当の解剖生理・病理は修了 2年次 治療論Ⅱ（周手術期）は後期に開講</p>		

年次・学期	1年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	老年看護学概論 30時間・1単位	教員名	大森 和子・寺岡 仁子
概要及び目的	人は誕生から老年期までの長い生涯を生きる。人生の最終ステージである老年期は、加齢の変化や健康障害に適応してより豊かに生きることが万人の願いである。その実現のために、高齢者を多面的に理解し、生活を支援するための看護の基礎と役割を学ぶ。		
授業内容	1. 老年期の理解（1） （1～6 大森） 老いを学ぶ 健康指標から見た高齢者の理解 2. 老年期の理解（2） 老いること 老いを生きること ライフサイクルからみた老年期 3. 老年看護の基盤 老年看護の成り立ち 老年看護の役割 老年看護に役立つ理論 4. 加齢に伴う変化の理解（1） 疾病をめぐる特徴 体の加齢変化とアセスメント 5. 加齢に伴う変化の理解（2） 精神機能の変化 社会機能の変化 6. 加齢の変化と疾患のなかで生きる高齢者を理解する 7～8. 高齢者の日常生活を理解する （大森、寺岡） 9～10. 高齢社会における権利擁護について理解する （9～14 寺岡） 差別 虐待 身体拘束 権利擁護のための制度 11～12. 高齢社会における自立支援システムを理解する 高齢者の保健福祉サービス 13～14. 認知症の人と家族のサポートについて理解する 15. 試験（テスト グループワーク レポート）		
評価方法	筆記試験、中間レポート、授業態度、出席状況で総合的に判断する。		
テキスト	老年看護学		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	高齢者の健康生活と支援 30時間・1単位	教員名	宗次 美登理・岩本 美代子
概要及び目的	高齢者は加齢に伴い種々の機能の変化が生じ、日常生活に影響を及ぼすだけでなく、疾患の引き金となる。また、高齢者が一度健康を破綻すると、予備力の低下から健康回復は遅延し、慢性的経過をたどりやすい。したがって老年看護の実践においては、高齢者個々の健康問題を全体的に捉え、看護ニーズを判断することが求められる。ここでは、老年期にある対象の加齢に伴う変化をふまえ、健康状態に応じた日常生活の援助を学ぶ。		
授業内容	1. 高齢者の加齢変化 2～3. 高齢者のコミュニケーション障害と看護 4～5. 高齢者の転倒・転落と看護 6～7. 高齢者の栄養と摂食 8～9. 高齢者の清潔ケア 10. 高齢者の排泄 11. 高齢者の脱水予防と看護 12～13. 高齢者の褥創予防と看護 14. 高齢者の薬物療法 15. 試験		
評価方法	1. 筆記試験 2. 授業態度・出席点を加味する		
テキスト	資料配布 参考書：系統看護学講座：「老年看護学」医学書院 系統看護学講座：「老年看護病態・疾患論」医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	高齢者の健康障害と看護 30時間・1単位	教員名	村上 昌穂・宗次 美登理
概要及び目的	高齢者の特徴的な疾患・障害を理解し、状況や症状に応じた看護の視点と予防を重視した看護の基本を学ぶ。		
授業内容	1. 高齢者に見られる主な疾患と病態 (村上) <ul style="list-style-type: none"> ・脳神経系の障害（脳血管障害・神経変性疾患） ・呼吸器系の障害（感染・閉塞性肺機能障害） ・循環器系の障害（心機能障害・心筋障害・血管の障害） ・栄養・内分泌・排泄機能障害 ・運動器・感覚器系の障害（骨関節の障害・聴覚障害・視覚障害） ・その他（腫瘍、アレルギー、皮膚疾患等） 2. 認知症のある高齢者と家族への看護 2～9 (宗次) 3. うつ状態にある高齢者の看護 4. せん妄のある高齢者の看護 5. 白内障のある高齢者の看護 6. 高齢者の感染への看護 7. リハビリテーションの必要な高齢者の看護 8. 高齢者の退院支援 9. エンドオブライフ・ケアと家族への看護		
評価方法	1. 試験 2. レポート		
テキスト	系統看護学講座『専門分野20 老年看護学』医学書院 系統看護学講座『専門分野21 老年看護 病態・疾患論』 医学書院 その他：VTR・資料配布		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	老年看護を展開するための技術 15時間・1単位	教員名	有松 実里
概要 及び 目的	健康障害のある高齢者の事例を通して、老年期の発達課題と健康障害との関連、急性期・慢性期・回復期の看護、継続・退院時の看護について総合的に学習する。		
授業内容	<p>1. 脳血管障害をもつ高齢者の看護 2. 誤嚥性肺炎に罹患した高齢者の看護 3. 在宅への生活に向けた高齢者の看護</p>		
評価方法	<p>1. 筆記試験 2. 受講態度 3. 提出物</p>		
テキスト	<p>資料配布 参考書：系統看護学講座：「老年看護学」医学書院 系統看護学講座：「老年看護病態・疾患論」医学書院</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	子ども看護学概論 15時間・1単位	教員名	大月道子
概要及び目的	子どもは子ども特有の心理を持ち、環境との相互作用のなかで生活し成長発達し続ける存在である。また、ひとりの人間としての人格を持ち、尊重されるべき存在であることを重視し、子どもの人権について理解する。現代の子どもと家族の概況を捉え小児看護の役割と課題を知り、子どもをとりまく保健対策についても理解する。		
授業内容	<p>1. 小児看護の理念と看護の概念 1) 小児医療・小児看護の変遷：子ども観の変遷 小児看護の目的・対象 2) 子どもの人権と看護：子どもと倫理 児童憲章 子どもと家族をとりまく社会の変化と問題（虐待）</p> <p>2. 子どもの看護に求められる看護者の役割と課題</p> <p>3. 子どもの成長発達過程と発達課題：定義・発達の一般原則 影響因子（家庭環境のアセスメント）</p> <p>4. 子どもと家族をめぐる環境の変化と保健：少子高齢化社会 情報化社会 小児の事故 子どもの虐待の背景と求められる援助</p> <p>5. 子どもをめぐる法律と施策：法律 母子保健行政施策（母子保健の動向と看護） 予防接種 学校保健と健康相談</p> <p>6. 医療・療育・生活に関わる職種との連携</p>		
評価方法	1. 筆記試験 2. 小テスト 3. 課題レポート		
テキスト	系統看護学講座『専門分野22 小児看護学概論・小児臨床看護総論(1)』医学書院 参考資料：国民衛生の動向		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	子どもの健康生活への援助 30時間・1単位	教員名	賀川 奈美
概要及び目的	<p>子どもの各期の特徴と成長・発達を理解し、成長・発達に適した生活ができる方法を理解する。</p> <p>また、これら子どもの理解に基づき、子どもに起こりやすい健康課題の特徴を、身体的・心理社会的側面から理解する。</p> <p>そして、子どもの生命を守り、健康の保持増進と疾病予防を図る生活援助技術について学ぶ。</p>		
授業内容	<p>1. 各期の子どもの形態的・機能的・心理社会的発達と家族</p> <p>1) 新生児の看護</p> <p>(1)新生児の健康増進と安全な環境の提供 身体の発育 運動能力の発育 栄養 睡眠 排泄 清潔・衣服</p> <p>(2)新生児のいる家族への看護 愛着形成 親子関係の調整 事故防止 感染予防 地域保健サービスの活用</p> <p>2) 乳児の看護</p> <p>(1)乳児の健康増進と安全な環境の提供 食事（栄養を含む）遊びの意義 睡眠 排泄 清潔・衣服</p> <p>(2)乳児のいる家族への看護 母子関係の確立 母子分離の不安 事故防止 地域保健サービスの活用</p> <p>3) 幼児の看護</p> <p>(1)幼児の健康増進と安全な環境の提供 幼児期の発達 基本的生活習慣の確立 遊びの発達と社会性</p> <p>(2)幼児のいる家族への看護 事故防止 地域保健サービスの活用</p> <p>4) 学童の看護</p> <p>(1)学童の健康増進とセルフケアの発達 学童の成長・発達と生活 学校保健</p> <p>(2)学童のいる家族への援助 学童期の子どもと家族の関係 生活習慣病予防 安全教育と安全管理</p> <p>5) 思春期の看護</p> <p>(1)思春期の子どもの健康増進とアイデンティティの確立 生活の問題 こころの問題</p> <p>(2)思春期の子どもと家族への看護 思春期の子どもと家族の関係 思春期と性</p> <p>2. 子どものアセスメント：フィジカルアセスメント 身体的アセスメント バイタルサイン 身体測定</p> <p>3. 演習：抱き方 おむつ交換 更衣 身体測定 バイタルサイン</p>		
評価方法	<p>1. 筆記試験</p> <p>2. 事前学習への取り組み、提出状況</p> <p>3. 校内演習 態度</p>		
テキスト	系統看護学講座『専門II 小児看護学概論・小児臨床看護総論(1)』医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	子どもに起こりやすい疾病 30時間・1単位	教員名	片山 雅博
概要及び目的	<p>小児科学は、小児の健康を守りそれを増進させることによって子どもを身体的・精神的・社会的に健康な状態の成人に育てるための学問の一つです。</p> <p>小児看護学では、小児を理解（小児の成長・発達、年齢的特性等小児の特徴）した上で、小児特有の疾患について、その特徴及び病態生理を理解し、併せてその症状の観察方法も学ぶことを目的とします。</p> <p>それによって、各種の疾患有する子どもたちの看護に役立てる知識（と経験）を身につけると同時に、医療従事者として、母親・父親に子育てや看護の“アドバイス”的立場にもなれる看護師になることを目的とします。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先天異常：染色体異常（ダウントン症候群、ターナー症候群）、先天性代謝異常等 2. 新生児、低出生体重児：生理的黄疸、頭蓋内出血、新生児仮死、呼吸窮迫症候群 3. 代謝性疾患：糖尿病 4. 内分泌疾患：成長ホルモン分泌不全、甲状腺機能低下・機能亢進症、先天性副腎過形成 5. 免疫、アレルギー疾患：免疫の働き、アレルギーの病態、気管支喘息、食物アレルギー 6. 感染症：ウイルス性（麻疹、風疹、水痘、ムンプス、脳炎、肝炎） 細菌性（百日咳、溶連菌感染症、ブ菌感染症、化膿性髄膜炎、結核） 7. 呼吸器疾患：クループ症候群、気管支炎、細気管支炎、肺炎、膿胸 8. 循環器疾患：先天性心疾患（心室中隔欠損症、ファロー四徴症）、心不全、川崎病 9. 消化器疾患：肥厚性幽門狭窄、腸重積、ウイルス性肝炎、胆道閉鎖症、感染性胃腸炎 10. 血液疾患：貧血（鉄欠乏性、再生不良性、溶血性）、紫斑病（血小板減少性、血管性） 11. 悪性腫瘍：急性リンパ球性白血病、脳腫瘍、 固形腫瘍（ウイルムス、神経芽腫） 12. 腎・泌尿器疾患：急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、膀胱尿管逆流現象、尿路感染症 13. 神経疾患：水頭症、頭蓋内出血、てんかん・熱性けいれん、髄膜炎、神経皮膚症候群 発達障害、注意欠陥多動症 14. その他 		
評価方法	小児の特徴及び疾患の病態生理の理解度を <u>筆記試験</u> により評価・判定する。		
テキスト	系統看護学講座：専門分野Ⅱ 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論 医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	子どもの健康障害と看護 30時間・1単位	教員名	山下 敬子
概要及び目的	様々な健康段階にある子どもとその家族の看護上の問題を理解し、子どもによくみられる症状、および、治療・処置に伴う援助技術について学ぶ。また、社会問題となっている育児環境の変化からくる不登校やいじめ、虐待などの問題も小児看護の対象として捉え、健全な家族機能が図れるための援助を学ぶ。		
授業内容	<p>1. 病気や入院が子どもとその家族に与える影響とその看護</p> <p>2. 子どもの入院環境</p> <p>3. 子どもによくみられる症状と看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 発熱 脱水 呼吸困難 痢攣 嘔吐 発疹 2) 隔離が必要な子どもへの看護 <p>4. 検査・処置を受ける子どもとその家族の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 検査・処置を受ける子どもと家族の体験（心理） 2) 検査・処置の前・中・後の関わり方 3) 採血 採尿 骨髄穿刺 腰椎穿刺 与薬 注射 輸液療法 <p>5. 救急処置が必要な子どもの看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 烫傷 溺水 中毒 誤飲 頭部外傷（打撲・出血） 2) 救急時の対処：心肺蘇生法 酸素療法 吸引 3) 救急処置を受ける子どもと家族の不安の緩和 4) 家族への安全教育 <p>6. 手術を受ける子どもとその家族の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 手術を受ける子どもの心理 2) プリパレーション 3) 活動制限が必要な子どもへの看護 <p>7. 慢性疾患をもつ子どもとその家族の看護</p> <p>8. 予後不良にある子どもとその家族の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 子どもの発達段階と状況に応じた死の理解 2) 家族の反応 3) 終末期の子どもと家族の看護 <p>9. 外来通院と継続看護</p> <p>10. 子どもへの虐待とその看護</p>		
評価方法	<p>1. 筆記試験</p> <p>2. レポート課題</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座『専門II 小児看護学概論・小児臨床看護総論(1)』医学書院</p> <p>系統看護学講座『専門II 小児臨床看護各論(2)』医学書院</p> <p>その他：配布資料</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	母性看護学概論 15時間・1単位	教員名	有道 順子
概要及び目的	<p>次世代を担う母性の育成の意義を学び、看護の目的を理解する。</p> <p>母性の意義や、性についての概念を理解して母性看護の特性を学ぶ。現代社会の動向を踏まえ、母性意識、父性意識が育つための環境因子について考える基礎を養う。対象のウェルネスのために看護の基本的な考え方を理解する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護の基盤となる概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ 4) リプロダクティブヘルス／ライツ 5) ヘルスプロモーション 6) 母性看護のあり方 7) 母性看護における倫理 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護の歴史的変遷と現状 2) 母性看護の対象を取り巻く環境 3. 母性看護の対象理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) 女性のライフサイクルと家族 4. 母性看護に必要な看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護における看護技術 2) 情報収集・アセスメント技術 3) 母性看護に使われる看護技術 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. グループワークへの参加とレポート提出 3. 授業態度、出席点を加味する 		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院		
備考	参考資料：国民衛生の動向		

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	母子の健康を整える看護 30時間・1単位	教員名	上田 良枝・柴田 貴子
概要及び目的	周産期のウェルネスにある母子の生理的変化と特徴を理解し、母子および母子を取り巻く人々に対して必要な基礎的な看護を学習する。		
授業内容	1. 妊娠期の看護 (上田) <ul style="list-style-type: none"> 1) 妊婦の身体的・心理的・社会的变化とセルフケア <ul style="list-style-type: none"> 妊娠の経過と胎児の発育 妊娠の心理 妊娠の日常生活とセルフケア 出産育児の準備 親役割 2) 妊婦と家族の看護 2. 分娩期の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 産婦の身体的・心理的・社会的变化とセルフケア <ul style="list-style-type: none"> 分娩経過と胎児の健康状態 産痛緩和 産婦と家族の心理 2) 産婦と家族の看護 3) 分娩期の看護の実際 3. 産褥期と新生時期の看護 (柴田) <ul style="list-style-type: none"> 1) 褥婦の身体的・心理的・社会的变化とセルフケア <ul style="list-style-type: none"> 産褥経過 褥婦の日常生活とセルフケア 2) 新生児の生理的变化 3) 育児にかかる看護 4. 褥婦と新生児と家族の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 褥婦を取り巻くサポート態勢 2) 退院後の看護 		
評価方法	1. 筆記試験 2. グループワークへの参加とレポート提出 3. 授業態度・出席点を加味する。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	健康に障害がある母子の看護 15時間・(女性の健康課題と看護と合わせて1単位)	教員名	佐野 力哉
概要 及び 目的	周産期のウェルネスから逸脱した母子について理解し、母子及び家族に対して必要な援助を理解する。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に起こりやすい異常について学ぶ。		
授業内容	<p>1. 妊娠期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) ハイリスク妊娠と妊娠期の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> 偶発全身性疾患 妊娠期の感染症 妊娠悪阻 多胎妊娠 流産 血液型不適合妊娠 早産 過期妊娠 子宮外妊娠 常位胎盤早期剥離 前置胎盤 妊娠高血圧症候群 <p>2) ハイリスク妊婦・異常をきたした妊娠の治療と看護</p> <p>2. 分娩期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) 分娩期の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> 産道の異常 娩出力の異常 胎児の異常による分娩障害 胎児付属物の異常 分娩時の損傷 分娩第3期及び分娩直後の異常 分娩時の異常出血 産科処置 帝王切開 胎児機能不全 死産 <p>2) 異常をきたした産婦の治療と看護</p>	<p>3. 産褥期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) 産褥期の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> 進行性変化と退行性変化の異常 褥婦の心理 <p>2) 異常をきたした褥婦の治療と看護</p> <p>4. 新生児期のウェルネスからの逸脱</p> <p>1) 新生児期の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> 低出生体重児 先天異常・障害を持つ新生児 分娩外傷 新生児仮死 <p>2) 異常をきたした新生児の治療と看護</p>	
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	女性の健康課題と看護 15時間・(健康に障害がある母子の看護と合わせて1単位)	教員名	柴田 貴子
概要及び目的	生殖機能の発達段階からあらわした胎児期、小児期、思春期、成熟期、更年、老年期をとおした女性の健康課題を理解し、看護を学ぶ。リプロダクティブヘルス／ライツの概念のもと女性の健康問題を理解し、必要な看護を学ぶ。		
授業内容	<p>1. ライフサイクルにおける女性の健康と看護</p> <p>1) 胎児期の健康と看護 出生前診断</p> <p>2) 小児期の健康と看護 愛着形成</p> <p>3) 思春期の健康と看護 第2次性徴 性周期とホルモン 心理的特徴 性教育</p> <p>4) 成熟期の健康と看護 家族計画 不妊治療と看護</p> <p>5) 更年期の健康と看護 ホルモンの変化 閉経・更年期障害 女性特有の疾患と看護 ・乳房・子宮・卵巣・骨粗鬆症・排泄障害</p> <p>6) 老年期の健康と看護</p> <p>2. リプロダクティブヘルスケア</p> <p>1) 性感染症とその予防</p> <p>2) 人工妊娠中絶と看護</p> <p>3) 喫煙・飲酒の影響と看護</p> <p>4) 性暴力を受けた女性に対する看護</p>		
評価方法	<p>1. 筆記試験</p> <p>2. グループワークへの参加とレポート提出</p> <p>3. 授業態度・出席点を加味する</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院</p>		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	母子への看護を展開するための技術 15時間・1単位	教員名	柴田 貴子・上田 良枝
概要 及び 目的	周産期の看護に必要な基本的技術を習得し、ウェルネスの視点からの看護実践能力を養う。また、周産期に必要な看護の視点を事例展開し学習する。		
授業内容	1. 周産期の看護実践 レオポルド触診法 沐浴 光線療法 ほか 2. 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の看護展開		
評価方法	1. グループワークへの参加とレポート提出 2. 授業態度・出席点を加味する		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 配布資料		
備考			

年次・学期	2年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	精神看護学概論 30時間・1単位	教員名	岡田 麻理子・横山 なおみ
概要及び目的	精神看護学の考え方を明確にした上で、精神保健福祉制度の動向を踏まえて、心の働きに影響される人間関係、環境、危機状況など幅広い視点から看護を考え、対象者とその家族への援助を行うための基礎的学習を深める。		
授業内容	<p>担当：岡田 麻理子</p> <p>1. 精神看護学の考え方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会環境の変化と社会病理 2) 心の健康・不健康、心の病気の考え方 3) 精神看護学における看護師の役割 <p>2. 精神保健</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健の概念 2) 人間関係と心のはたらき <ol style="list-style-type: none"> ①人間関係にはぐくまれる個人の心 ②人間関係の中での心の問題 ③「からだ」と「心」及び人間関係 3) 環境と心のはたらき <ol style="list-style-type: none"> ①暮らしの場 ②教育の場 ③職場 ④地域社会 4) 危機状況と心のはたらき <ol style="list-style-type: none"> ①危機的状況とは ②発達段階での危機諸相と危機介入 ③医療現場における危機の諸相 ④特殊な状況（災害時など）における危機の諸相 <p>担当：横山 なおみ</p> <p>1. 社会のなかの精神障害</p> <ol style="list-style-type: none"> A. 精神障害と治療の歴史（現在に至るまでの欧米における治療と処遇の歴史を学ぶ） B. 日本における精神医学・精神医療の流れ（日本における治療と処遇の歴史を学ぶ） C. 精神障害と文化（国際化が進み文化の違いがあるなかでの相互理解について考える） D. 精神障害と社会学（社会的な差別偏見の仕組みについて学び社会的包摂を理解する） E. 精神障害と法制度 <ol style="list-style-type: none"> ①精神科看護と法律 ②精神科領域で必要な法律と制度 <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護に関する法律と制度 ・医療を受けるための法律と制度 ・生活を支えるための法律と制度 ・個別の課題に対応した法律 ③法律・制度における課題 ④主な精神保健医療福祉対策 <ul style="list-style-type: none"> ・自殺、うつ病対策 ・薬物、アルコール依存症対策 ・認知症対策 ・てんかん対策 <p>2. 地域における精神保健と精神看護</p> <ol style="list-style-type: none"> A. 精神障害をもなながら地域で暮らす人を支える <ol style="list-style-type: none"> ①「入院をどう考えるか」 ②長期入院患者の地域移行への支援 ③ケアマネジメントの発想と方法 ④クライエントとしてのコミュニティ B. 地域で生活するための原則 <ol style="list-style-type: none"> ①当事者が知りておくとよいこと ②援助者が心得ておくべきこと C. 生活を支えるための社会資源・サービス <ol style="list-style-type: none"> ①相談支援 ②医療にかかるサービス ③生活を支えるサービス ④一般就労に向けての支援 ⑤当事者のエンパワーメントのためのサービス D. 地域での看護の実際（5事例を通して支援のポイントを理解する） E. 学校における精神保健と精神看護 <ol style="list-style-type: none"> ①学校という場とメンタルヘルス ②学校で精神保健・看護を担う専門職 ③学校におけるメンタルヘルスの問題と社会的取り組み ④学校における精神保健への取り組みの実際 F. 職場における精神保健と精神看護 <ol style="list-style-type: none"> ①労働者の心の健康（メンタルヘルス）の現状 ②メンタルヘルス制度と職場復帰支援制度 ③職場でのメンタルヘルス支援の実際 		
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト	『精神看護の基礎』医学書院 『精神看護の展開』医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	精神障がいをもつ人の理解 30時間・1単位	教員名	原 正吾 他
概要 及び 目的	精神障がいの現れ方の特徴と主な精神疾患の原因、診断、治療について理解し、精神に障がいをきたした個人とその家族に対する看護を行う上での、基礎的学習を深める。		
授業内容	1. 精神障害のとらえ方 2. 精神障がいの病因と分類 3. 精神障がいの症状と病理 4.) 精神症状（知覚・思考・感情・意識・意欲や行動・知能・記憶などの障がい） 5.) 状態像（不安・幻覚・妄想・抑うつ・無為・精神運動興奮・昏迷など） 4. 精神障がいのある人の診断と検査・治療 5. 精神疾患の理解（統合失調症・気分障害・器質性精神障害・神経症性障害・ストレス関連障害・心因精神病・人格障害・てんかんなど）		
評価方法	1. 筆記試験		
テキスト	『精神看護の基礎』医学書院 『精神看護の展開』医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	精神障がいをもつ人の看護 45時間(20-25)・2単位	教員名	狩屋 徹・岡田 麻理子
概要及び目的	精神看護概論や精神保健、精神障害の成り立ちで学んだことを統合し、患者一看護師間の成立・発展の必要性を理解し、精神に障害をきたした個人とその家族に対して、障がいの状態に応じた基本的看護について学習する。		
授業内容	1. ケアの人間関係 1) ケアの原則と方法 2) 患者一看護師関係の構築 2. 精神科における看護の役割 1) 治療的環境 2) 精神科におけるリスクマネジメント 3) 精神症状の看護・精神疾患別看護 4) 精神障がいをもつ対象とその家族の看護 5) 精神科におけるリハビリテーションと看護 3. 精神科における身体ケア 1) 薬物療法と看護 2) 精神科における身体ケアの実際 4. リエゾン精神看護		
評価方法	1. 筆記試験 2. 課題レポート		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ「精神看護の基礎」精神看護学① 医学書院 「精神看護の展開」精神看護学② 医学書院		
備考			

年次・学期	3 年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	成人看護学実習 I (生命危機状態・周手術期にある人への看護) 135 時間・3 単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	危機的状況にある人の生命を守り、経過にそった変化をとらえ、回復を支える看護を理解する。		
授業内容	突然の事故や急激な健康破綻、侵襲的な治療など生命が危機的状況にある人は、状態の変化が早く、迅速な治療や処置がおこなわれる。そのため、経過にそった生体反応の変化をとらえ、合併症を予測した注意深い観察とアセスメントが必要であることを理解する。また、危機的状況に直面した人の治療・処置・検査が成人期にある人の生活へ及ぼす影響をふまえ、健康状態を悪化させる要因を取り除き、回復に向かうための看護を理解する。さらに退院後の生活を予測した、社会復帰に向かうための支援のあり方について学ぶ。		
評価方法	学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行い、合格は60点以上とする。合否の可否は審議し、決定する。		
テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論① 呼吸器② 循環器③ 脳・神経⑦ 腎・泌尿器⑧ 女性生殖器⑨ 医学書院 高齢者と成人の周手術期看護 1 外来／病棟における術前看護第2版 2 術中／術後の生体反応と急性期看護第2版 医歯薬出版 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院		
備考			

年次・学期	3年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	成人看護学実習Ⅱ(生活習慣の改善・緩和ケアを必要とする人の看護) 135時間・3単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	継続的治療および長期に症状コントロールを必要とする人が、自らの健康と生活をマネジメントしながらよりよく生きていくことを支える看護を理解する。		
授業内容	成人期にある人は、社会の担い手として仕事をもち働き生活を営んでいる。慢性的な健康障害により継続治療および長期に症状コントロールを必要とする場合、自らの健康と生活をマネジメントしていくことが必要である。そのため、看護者は健康障害により身体におこっている様々な変化をとらえ、その人にとって症状が健康と生活にどのような影響を及ぼしているかを理解し、患者が主体的に自分の状態をセルフマネジメントできるように学習を支援し、行動変容を支える看護の必要性を理解する。さらに治癒することが困難な状況にある人への緩和ケアのあり方について学ぶ。		
評価方法	学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行い、合格は60点以上とする。合否の可否は審議し、決定する。		
テキスト	系統看護学講座 臨床看護総論④ 成人看護学総論① 呼吸器② 循環器③ 消化器⑤ 脳・神経⑦ 腎・泌尿器⑧ 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学⑦ 緩和ケア メディカ出版		
備考			

年次・学期	3年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	老年看護学実習 I 90時間・2単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	施設で暮らす高齢者の健康状態および生活状態を理解し、高齢者のQOLを高め個別性に応じた看護を実践できる能力を身につける。また、保健医療福祉サービスについて理解し、他職種の中での看護の役割と援助について考える。		
授業内容	<p>老年看護学実習 I –(1) (生活援助を必要とする高齢者の看護)</p> <p>【目標】 施設に入居している高齢者との関わりを通して、認知機能や生活機能の低下が生活に及ぼす影響をふまえ、その人らしく充実した生活を過ごすための看護について学ぶ。</p> <p>【実習のねらい】 高齢者は複数の疾患をもち、症状や経過も典型的ではなく、観察された徴候が加齢に伴う心身機能の低下か、疾患によるものなのかを見極めることが難しい。療養生活の場は高齢者の終の棲家になることもありうるので、なるべく高齢者の日常生活に近づけ、その人らしく充実した生活の継続性につながる看護が必要である。その高齢者の生まれ育った環境や地域、職業、趣味、価値観、家族や周囲の人との関係などさまざまな要素がその人の生活を形づくっていることを理解しながら、加齢による認知機能や生活機能の低下が生活に及ぼす影響を考え、対象者が無理のない日常生活を継続するセルフケア能力を保てるように支援し、その人らしく充実した生活を送るための看護の役割を学ぶ。</p> <p>老年看護学実習 I –(2) (療養・リハビリテーションを必要とする高齢者の看護)</p> <p>【目標】 施設に入所し、リハビリテーションを必要とする高齢者とその家族との関わりを通して、認知機能や生活機能の低下が生活に及ぼす影響をふまえ、在宅復帰にむけた看護の役割について学ぶ。</p> <p>【実習のねらい】 高齢者が安心して療養生活の場から日常生活の場に戻ることができるよう、医療と看護・介護を引き継ぐ支援が必要となる。高齢者が自己の健康状態を意識し、無理のない日常生活を継続するセルフケア能力を保つことができるための援助を考え、ヘルスケアシステムを活用し、日常生活の場につなぐために必要な看護の役割を学ぶ。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいてI –(1)、I –(2)それぞれで評価を行い、合格は60点以上とする。 合格の可否は審議し、決定する。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 実習要項 参考書：系統看護学講座：「老年看護学」医学書院 系統看護学講座：「老年看護 病態・疾患論」医学書院 		
備考			

年次・学期	3年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	老年看護学実習Ⅱ (治療を必要とする高齢者の看護) 90時間・2単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	<p>老年期の特性をふまえ、対象の健康レベルや生活状況を総合的に理解し、対象の個別性に応じた看護が、実践できる能力を身につける。</p> <p>また、実践を通して、保健医療福祉チームにおける看護の役割について理解する。</p>		
授業内容	<p>【目標】 入院治療を必要とする高齢者への看護実践をとおして、健康状態と加齢変化が高齢者に及ぼす影響を考えながら、起こりうるリスクを最小化し、もてる力を引き出し、退院支援や地域連携の考え方を知り、高齢者への看護の特徴と看護師の役割を理解する。</p> <p>【実習のねらい】 高齢者は加齢の進行に伴い様々な機能低下（身体的・精神的・社会的）を余儀なくされる。また、疾患に罹患すると慢性化しやすく、障害をかかえて生活することが多くなる。そのため、入院治療により本来の疾病とは関係なく日常生活動作（ADL）や精神機能の低下、家庭での役割の喪失など、あらゆる面で防ぎ、対象者が目ざしうる生活機能の回復を最大限に促すための看護が重要となる。また、高齢者はいかなる状態にあっても尊厳に値し、その人独自のニーズと個性の発現が尊重されなければならない。看護師は高齢者の立場に立って医療チームに仲介する代弁者として権利擁護の役割を果たすことが求められる。</p> <p>老年看護学実習Ⅱでは、入院治療を必要とする対象者を受け持ち、加齢変化と疾患との関連性や相違を考えながら、疾患からくる特異的な症状だけでなく、高齢者の特徴である非特異的症状の現れ方などを考慮し、対象者の日々の様子と常に比較しながら、対象者の今の状態を観察し、結果を判断し、判断した結果を看護につなげていく。また、入院治療により起こりうる老年症候群などのリスクが軽減でき、対象者や家族のニーズを考慮し対象者の尊厳を守り、目指しうる生活機能の回復に向かえるような看護を実践する。さらに、ヘルスケアシステムの活用をふまえた退院支援と地域連携の考え方を学び、高齢者への看護の特徴と看護師の役割を理解する。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行い、合格は60点以上とする。 合否の可否は審議し、決定する。 		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 実習要項 参考書：系統看護学講座：「老年看護学」医学書院 系統看護学講座：「老年看護 病態・疾患論」医学書院 		
備考			

年次・学期	3 年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	小児看護学実習 90 時間・2 単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	子どもの各期の成長発達について理解を深め、健やかな成長発達を促すための子どもとその家族に必要な看護について学ぶ。		
小児看護学実習 I (健康な子どもの理解と援助)			
【目標】 健康は乳幼児の日常生活行動を実際の保育活動をとおして、身体的・精神的・社会的特徴を理解する。			
【実習のねらい】 小児看護の対象である子どもは、各時期の発達課題を達成していくものであり、成熟に向けてつねに変化する存在である。したがって、健やかな成長発達を促すためには、個々の発達状況に合わせた支援が必要であり、子どもたちの成長発達の特徴を理解することは、小児看護を学ぶ上で重要である。そのため、保育園で活動している子どもの基本的生活習慣や遊びなどをとおして、子どもがみずから持てる力と環境との相互作用の中で成長発達している事を知り、各時期の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。また、子どもを一人の人として尊重した態度で接することの大切さを学ぶ。			
小児看護学実習 II (発達障害のある子どもの理解と援助)			
【目標】 発達障害児通園施設に通園している子どもと関わり、一人ひとりの特性に応じた関わりの重要性と、家族への支援の必要性を学ぶ。			
【実習のねらい】 発達障害のある子どもとその家族が望む日常生活や社会生活を営めるよう援助するために、起こりやすい健康問題や発達の特徴を知る事が重要である。その上で、発達を促進する事、家族の障害のとらえ方を確認し、その障害の受容段階にそった支援が必要である。			
発達障害通園施設では、基本的生活習慣を身につけ、コミュニケーション力を高めて、集団生活の中で社会性を高めることを目的に療育されている。そのため、通園している子どもと関わり、個々の特性に合わせた療育の必要性について学ぶ。また、子どもとの関わりから、障害を持つ子どもの家族の思いについて考え、家族への支援の必要性を理解する。			
小児看護学実習 III (健康障害のある子どもの看護)			
【目標】 健康障害を持つ子どもとその家族に対する健康の保持・増進と回復を支えるための看護を学ぶ。			
【実習のねらい】 子どもは成長発達過程にあり機能的に未熟で、病気になると重篤になりやすい。そのため早期に入院して治療を必要とすることが多い。入院治療では、苦痛を伴う処置等が多く、子どもにとってストレスが高い環境である。子どもは苦痛を周囲の人に適切に伝えられないこと、症状やその見通しなどを十分理解できないことから不安や恐怖、いらだちをつのらせる状況にある。したがって、症状の原因を取り除く治療、苦痛を緩和する治療を緩和する治療を迅速かつ安全に受けられるように援助することが看護の重要な役割である。			
健康障害を持つ子どもを身体的・精神的・社会的な側面から理解し、療養生活の中でストレスを軽減するための援助について学ぶ。また、治療や検査は子どもにさまざまな侵襲を与える。子ども自身が治療や検査へ主体的に参加できるように意思決定の支援の重要性について考える。さらに、子どもを看護する上で家族は欠かせない存在である。そのため、子どもだけではなく、家族を含めた看護の重要性を学ぶ。			
授業内容			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて I・II・III それぞれで評価を行う。 合否の可否は審議し、決定する。 		
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論① 医学書院 小児臨床看護各論② 医学書院		
備考			

年次・学期	3 年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	母性看護学実習 90 時間・2 単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	妊婦、産婦、褥婦、新生児、乳児の各期の生理的変化をふまえ、対象に応じた看護を学ぶ。また、新しい生命を迎える家族に必要な看護の役割について学ぶ。		
授業内容	<p>母性看護学実習 I（周産期の看護）</p> <p>【目標】 妊婦、産婦、褥婦、新生児やその家族との関わりをとおして、母体の生理的変化や母子相互的作用、母子を取り巻く環境を考えながら、生命の尊さを理解し母子や家族への援助が実践できる。</p> <p>【実習のねらい】 命を育む女性は、自ら健康をコントロールし改善する力がある。そこで、妊娠、分娩、産褥、新生児各期の生理的過程を理解し、ウェルネスの視点で支援することと母子とその家族を同時に看護することを学ぶ。また社会背景や環境が母子へ与える影響に対して必要な援助について理解してほしい。近年ハイリスク妊産婦の増加に伴い、正常から逸脱するリスクが高まると考えられるため、それを判断する知識と技術を理解してほしい。また、女性の社会的役割や核家族化の背景をふまえ、社会保障制度と継続看護について学ぶ。そして次世代を生み育てる過程の出発点になる母子の愛着形成を促し、親性の育成について学ぶ。</p> <p>母性看護学実習 II（乳児期の看護）</p> <p>【目標】 乳児との関わりをとおして、養育者との相互作用における愛着形成について理解し、乳児のニーズをとらえながら成長発達を促すために必要な看護を理解する。</p> <p>【実習のねらい】 乳児が心身ともに健全に成長・発達して将来の社会生活に適応していくためには、本来は、家庭において両親と愛着関係を形成し、温かい愛情と適切な家庭環境のもとに育成されることが基本となる。乳児院は、何らかの事情で親が養育できない児を社会的に養護している児童福祉施設である。両親と離れて暮らす乳児にとっては、養育者と他の児との集団生活の関わりによって情緒の安定が保証され、豊かな人格が形成される暮らしの場である。特に乳児の愛着形成を促進するために、家庭的な環境の中で、基本的信頼を形成する必要性を学ぶ実習とする。また、日常生活の援助をとおして、乳児の特徴と養育環境について学ぶ。更に看護師の役割と、そこで協働している他職種との連携から育児支援の重要性を学ぶ。</p>		
評価方法	学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて I・II それぞれで評価を行い、合格は60点以上とする。 合否の可否は審議し、決定する。		
テキスト	1. 実習要項 2. 自己学習ファイル 3. 参考書：系統看護学講座 専門 II 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 II 母性看護学各論 医学書院 系統看護学講座 専門 II 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院		
備考			

年次・学期	3 年次・前～後期	担当科	看護学科
科目名	精神看護学実習 90 時間・2 単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	精神に障がいがある対象者の自立性の回復を支援し、その人の自己実現を支えるための看護を学ぶ。		
授業内容	<p>【目標】 対象者との治療的関係の構築をとおして精神に障がいがある対象者の精神症状が生活に及ぼす影響を理解し、対象者の自律性の回復を支援する。</p> <p>【実習のねらい】 精神に障がいがある対象者は幻聴や妄想などの精神症状の苦しみだけではなく、社会生活での生きにくさやセルフスティグマなど様々な苦痛をもちながら生活している。精神看護ではこのような対象者の思いや葛藤に耳を傾けながらその人のよりよい生き方を支援することが重要である。そのためには対象者が他者との関わりをとおして対人関係のスキルを学習できる環境が必要であり、看護師はその治療的環境の一部である。この実習では対象者の疾患だけではなく、ありのままのその人を理解し、自律性を高める看護の重要性を学ぶ。</p> <p>また、精神医療では法律に基づいて対象者の意思によらない入院や治療が行われることもある。しかし、どのような状況下においても対象者が自己決定できるように看護師はアドボケイトとしての役割も担っていることを学ぶ。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック評価表を用いて行い、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。 ・学生自己評価、教員・指導者評価に基づいて行う。 ・合格の可否は審議し、決定する。 		
テキスト	1. 実習要項 2. 学習ファイル ポートフォリオ・リフレクションノート 参考書：系統看護学講座 専門Ⅱ「精神看護の基礎」精神看護学① 医学書院 「精神看護の展開」精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院		
備考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	看護学科																							
科目名	在宅看護概論 15 時間・1 単位	教員名	双田 清美																							
概要及び目的	急速な高齢化・少子化の進展とともに、地域や在宅で療養者の生活を支えていくための諸制度は整備されてきている。一方、医学・医療技術の進歩は在宅療養を可能にし、医療機能の分化、連携の推進により在宅看護の重要性は高まっている。このような現状に対応し、地域で生活しながら療養する人々、あるいは障害を持ちながら生活する人々とその家族を理解するとともに在宅看護活動について理解する。																									
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内 容</th><th>授業形態</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入・在宅における看護師の役割と看護師が必要な能力について考える</td><td>DVD 視聴</td></tr> <tr> <td>2</td><td>パフォーマンス課題解決に個人で取り組む①</td><td>演習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>在宅看護のしくみについて</td><td>講義</td></tr> <tr> <td>4</td><td>訪問看護の実際と現状について</td><td>"</td></tr> <tr> <td>5・6</td><td>パフォーマンス課題解決に個人で取り組む②③</td><td>演習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>課題で取り組んだ資料を相互評価・まとめ</td><td>"</td></tr> <tr> <td>8</td><td>終講試験</td><td>"</td></tr> </tbody> </table>		回	内 容	授業形態	1	導入・在宅における看護師の役割と看護師が必要な能力について考える	DVD 視聴	2	パフォーマンス課題解決に個人で取り組む①	演習	3	在宅看護のしくみについて	講義	4	訪問看護の実際と現状について	"	5・6	パフォーマンス課題解決に個人で取り組む②③	演習	7	課題で取り組んだ資料を相互評価・まとめ	"	8	終講試験	"
回	内 容	授業形態																								
1	導入・在宅における看護師の役割と看護師が必要な能力について考える	DVD 視聴																								
2	パフォーマンス課題解決に個人で取り組む①	演習																								
3	在宅看護のしくみについて	講義																								
4	訪問看護の実際と現状について	"																								
5・6	パフォーマンス課題解決に個人で取り組む②③	演習																								
7	課題で取り組んだ資料を相互評価・まとめ	"																								
8	終講試験	"																								
評価方法	知識 : 終講試験 スキル : 資料 思考・判断・表現 : レポート、資料																									
テキスト	系統看護学講座『在宅看護論』医学書院 国民衛生の動向																									
備考																										

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科															
科目名	在宅での生活行動を支える技術 15時間・1単位	教員名	定金 直美															
概要及び目的	在宅で療養する学習用架空事例対象者の関連図や提案書をとおして、対象者やその家族の現状と課題、健康上のニーズを把握し、必要な資源（社会福祉制度他）の活用を促し、支援を受けながら自律的な生活を送ることができるような在宅看護の必要性を理解する。ここでは、特に在宅での療養者の生活行動を看護師としてどのように支えるか、理解する。																	
	<p>[1コマ] 学習用架空事例の導入 [2コマ 3コマ] 学習用架空事例と関連図にグループで取り組む [4コマ] 事例の発表 [5コマ] 各自担当の提案書作成 [6コマ] 他者評価 [7コマ] まとめ</p>																	
授業内容	<p style="text-align: center;"><課題>学習用架空事例 個人提案書 評価基準表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル</th> <th>評価の観点</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A : この訪問看護師の訪問看護なら自宅での療養生活が安心して継続できるのでぜひこれからも来てほしい。 すばらしい。15点</td> <td>対象者の現在の看護上の課題がアセスメントをふまえて明確であり、対象者の目標や看護が根拠に基づき、個別性のある内容となっている。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案も根拠に基づき、個別性のある内容となっている。</td> <td> <input type="checkbox"/> 3回目の訪問 <input type="checkbox"/> 季節 <input type="checkbox"/> 本人の思い <input type="checkbox"/> 病状や今後の進行をふまえた状況の把握 <input type="checkbox"/> 服薬状況 <input type="checkbox"/> ADLの状態 <input type="checkbox"/> 生活背景・環境 <input type="checkbox"/> 家族の思い・健康状態 <input type="checkbox"/> 社会資源の活用 </td> </tr> <tr> <td>B : この訪問看護師の訪問看護なら自宅での療養生活ができる、これからも来てほしい。 よい。10点</td> <td>対象者の現在の看護上の課題がアセスメントをふまえて明確であり、対象者の目標や看護がおおよそ根拠に基づき、おおよそ個別性のある内容となっている。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案もおおよそ根拠に基づき、おおよそ個別性のある内容となっている。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>C : この訪問看護師の訪問看護だと自宅での療養生活が継続できるかちょっと不安なので、訪問看護師を代えてもらおうかな。 努力が必要。5点</td> <td>対象者の現在の看護上の課題のアセスメントをが不十分であり、対象者の目標や看護の根拠に基づいた内容が不足している。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案は偏っている。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D : 評価の対象外 0点</td> <td>内容の著しい不足、または提出条件や期限が守られていない。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			レベル	評価の観点	ポイント	A : この訪問看護師の訪問看護なら自宅での療養生活が安心して継続できるのでぜひこれからも来てほしい。 すばらしい。15点	対象者の現在の看護上の課題がアセスメントをふまえて明確であり、対象者の目標や看護が根拠に基づき、個別性のある内容となっている。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案も根拠に基づき、個別性のある内容となっている。	<input type="checkbox"/> 3回目の訪問 <input type="checkbox"/> 季節 <input type="checkbox"/> 本人の思い <input type="checkbox"/> 病状や今後の進行をふまえた状況の把握 <input type="checkbox"/> 服薬状況 <input type="checkbox"/> ADLの状態 <input type="checkbox"/> 生活背景・環境 <input type="checkbox"/> 家族の思い・健康状態 <input type="checkbox"/> 社会資源の活用	B : この訪問看護師の訪問看護なら自宅での療養生活ができる、これからも来てほしい。 よい。10点	対象者の現在の看護上の課題がアセスメントをふまえて明確であり、対象者の目標や看護がおおよそ根拠に基づき、おおよそ個別性のある内容となっている。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案もおおよそ根拠に基づき、おおよそ個別性のある内容となっている。		C : この訪問看護師の訪問看護だと自宅での療養生活が継続できるかちょっと不安なので、訪問看護師を代えてもらおうかな。 努力が必要。5点	対象者の現在の看護上の課題のアセスメントをが不十分であり、対象者の目標や看護の根拠に基づいた内容が不足している。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案は偏っている。		D : 評価の対象外 0点	内容の著しい不足、または提出条件や期限が守られていない。	
レベル	評価の観点	ポイント																
A : この訪問看護師の訪問看護なら自宅での療養生活が安心して継続できるのでぜひこれからも来てほしい。 すばらしい。15点	対象者の現在の看護上の課題がアセスメントをふまえて明確であり、対象者の目標や看護が根拠に基づき、個別性のある内容となっている。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案も根拠に基づき、個別性のある内容となっている。	<input type="checkbox"/> 3回目の訪問 <input type="checkbox"/> 季節 <input type="checkbox"/> 本人の思い <input type="checkbox"/> 病状や今後の進行をふまえた状況の把握 <input type="checkbox"/> 服薬状況 <input type="checkbox"/> ADLの状態 <input type="checkbox"/> 生活背景・環境 <input type="checkbox"/> 家族の思い・健康状態 <input type="checkbox"/> 社会資源の活用																
B : この訪問看護師の訪問看護なら自宅での療養生活ができる、これからも来てほしい。 よい。10点	対象者の現在の看護上の課題がアセスメントをふまえて明確であり、対象者の目標や看護がおおよそ根拠に基づき、おおよそ個別性のある内容となっている。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案もおおよそ根拠に基づき、おおよそ個別性のある内容となっている。																	
C : この訪問看護師の訪問看護だと自宅での療養生活が継続できるかちょっと不安なので、訪問看護師を代えてもらおうかな。 努力が必要。5点	対象者の現在の看護上の課題のアセスメントをが不十分であり、対象者の目標や看護の根拠に基づいた内容が不足している。 対象者本人だけでなく、家族に対する支援や社会資源を活用した提案は偏っている。																	
D : 評価の対象外 0点	内容の著しい不足、または提出条件や期限が守られていない。																	
	<p>各自で グループで作成した対象者の外見、家の間取りをふまえて3回目（6月1日）の訪問時に看護師として何をするか考え、実施（指導や確認も含む）するための具体的な内容を提案書としてまとめる。（A3用紙1枚） 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ ・対象者の現在の看護上の課題 ・本日実施する具体的な内容とその根拠 <ul style="list-style-type: none"> ・今後検討した方がよい社会福祉制度の提案とその根拠 ・参考文献 ・裏にクラス・グループ・番号・氏名 																	
評価方法	グループ資料（5点）、各自プレゼンテーション資料（15点）、終講試験（80点） その他、氏名未記載などの不備・出席状況・取組態度により減点や欠課にします。また、終講試験に落ちると再試験は100点満点で臨むようになります。																	
テキスト	『在宅看護論』医学書院 系統看護学講座：老年看護学、医学書院 配布資料																	
備考																		

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	医療依存度の高い療養者を支える技術 30時間・1単位	教員名	定金 直美
概要及び目的	「医療機能の分化・連携の推進による切れ目のない医療の提供」「地域包括ケアシステムの構築による高齢者の生活の質（QOL）の向上」がいわれ、在宅において医療依存度の高い療養者を支える看護の役割はますます高まっている。本科目では、在宅において頻度の高い診療の補助に関する看護技術を学ぶ。		
授業内容	<p>1. 事例：A L S 療養者の在宅での看護を理解するパフォーマンス課題 <パフォーマンス課題> あなたは訪問看護ステーションの訪問看護師です。前の担当者から引継ぎ、学習用架空事例の旭 川子さんの担当になりました。A L S を発症し入退院を繰返してきたこれまでの経過、現状と今後を考えたい退院後の川子さんと介護者の夫が自宅での療養生活を継続できるような看護を考えます。アセスメント A 3 用紙 1 枚。</p> <p>2. 勝胱留置カテーテルを装置中の療養者の在宅での看護</p> <p>3. 在宅輸液療法（H P N）を受ける療養者の在宅での看護</p> <p>4. 在宅酸素療法を受ける（H O T）療養者の在宅での看護</p> <p>5. 気管カニューレを装着中の療養者の在宅看護</p>		
評価方法	<p>1. パフォーマンス課題（20点）</p> <p>2. 終講試験 80点（復習シート提出点含む）</p>		
テキスト	『在宅看護論』医学書院 系統看護学講座 呼吸器〔2〕 脳神経〔7〕 腎・泌尿器〔8〕 医学書院		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	看護学科
科目名	障がいをもつ人の理解と支援（知的障害・発達障害の理解） 15時間・（障がいをもつ人の理解と支援（重症心身障害者の看護）と合わせて1単位）	教員名	新谷 義和 他
概要及び目的	心身に障害をもつ人の生活の中心は、社会福祉施設である場合も少なくない。本授業では、わが国の障害者医療福祉施策について常に先駆的な役割を果たしている旭川荘をモデルとして理解するとともに、そこで生活する知的障害や発達障害をもつ人に対する医療福祉サービスの実際について体験的に学習する。		
授業内容	<p>1. 社会福祉法人旭川荘について 1) 旭川荘の歴史及び旭川荘の現状と課題（2 H） 2) 資料館及び敬愛館見学（2 H）</p> <p>2. 社会福祉施設の役割と対象者の理解 1) 知的障害児（者）・発達障害児（者）の就労支援他（2 H） 2) 当事者の方の講演（元ハンセン病療養者等）（2 H）</p> <p>3. 障害者支援または知的障害児入所施設におけるふれあい実習 1) 実習に向けて心構え（2 H） 2) ふれあい実習（4 H） 3) 事後レポート</p>		
評価方法	1. レポート 2. 出席点を加味する		
テキスト	必要に応じ資料提示		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	看護学科
科目名	障がいをもつ人の理解と支援(重症心身障害者の看護) 15時間・(障がいをもつ人の理解と支援(知的障害・発達障害の理解)と合わせて1単位)	教員名	看護学科教員
概要 及び 目的	重症心身障害者を理解し、かけがえのない命への畏敬や障がいをもち生活している対象者のノーマライゼーション、社会参加への理解、QOLの向上のための看護を学ぶ。また、他職種と連携し多様な社会資源の活用を図り、医療保健福祉チームのなかの一員としての看護の役割を学ぶ。		
授業内容	<p>1. 重症心身障害児・者の看護 (12H)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の特性 2) 看護の役割 3) 重症心身障害児・者にみられる主な症状と看護 <p>2. 障害をもつ当事者の思い・家族の思いを知る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 重症心身障害者の家族の方の講演 (2 H) 2) 事後レポート (1 H) 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. レポート 		
テキスト	必要に応じ資料提示 配布資料		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	国際看護・災害看護 30時間(15-15)・1単位	教員名	岩本 美代子・浅越 博之
概要及び目的	<p><国際看護> 世界の健康課題を理解し、その対策の取り組みを理解する。国内での健康課題が世界と密接に関係している現状を理解し看護師の役割と協力の重要性を学ぶ。</p> <p><災害看護> 災害発生時の準備、災害発生直後から復旧時、中長期までの各期における看護支援活動を学ぶ。</p>		
授業内容	<p><国際看護> (岩本)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の国の理解、起きている課題 ・世界の健康課題への対策のしくみ ・日本のなかでの世界との関係の動向 ・異文化看護 ・国際協力のしくみ <p><災害看護> (浅越)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害医療の基礎知識 ・災害発生初期・慢性期・復興期(中・長期)における看護支援活動 ・災害時に起こりやすい疾病 ・災害発生(直後)のトリアージ ・救急蘇生の理解(演習) ・災害に備えての看護の役割 ・災害時のこころのケア 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 出席点を加味する 3. レポート 4. 演習点 		
テキスト	統合分野3「災害看護学・国際看護学」医学書院 専門2「基礎看護学(3) 基礎看護技術II」医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	看護学科
科目名	看護と倫理 15時間・1単位	教員名	寺岡 仁子
概要及び目的	<p>看護の対象はさまざまな価値観をもち、看護ニードも異なるため、対象の理解を十分に行い、それぞれに応じた最善の看護が必要とされる。そのために、看護師は人として求められる一般的な倫理性や看護師として求められる倫理性を有している必要がある。</p> <p>そこで講義では、看護倫理の基礎を理解し、事例を通して具体的な倫理判断の方法を学ぶ。また、自己の看護実践の分析を通して看護実践に内在する倫理を追求し、対象の価値や信念、意向を尊重した看護を実践していくための価値観と最善の看護を実現しようとする意思を養成する。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理概論 2. 倫理問題へのアプローチ 3～4. グループワークによる事例検討 5～7. 発表、ディスカッション 8. まとめ 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席点 2. レポート 3. グループワーク、ディスカッション内容、態度 他 		
テキスト	<p>南光堂『看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ』 (副本)</p> <p>照林社 よくわかる『看護者の倫理綱領』</p> <p>配布プリント</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	看護学科
科目名	看護を提供するしくみ 15時間・1単位	教員名	清水 恵子
概要及び目的	看護の対象となる人々に最も良質な看護を提供するしくみを理解し、医療チームの一員として看護をマネージメントできる基礎的能力を養う。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・看護におけるサービスという考え方について理解を深める ・チーム医療に携わるさまざまな職種を把握し、チームの機能を理解する ・看護サービスの提供の場と、それぞれの場における看護サービスについて把握する ・看護にかかわるさまざまな法制度を理解し、またそれがつくられる過程についても理解する ・看護サービスを提供する人員の配置と、看護サービスの評価が決定されるしくみについて把握する ・看護サービスの管理について、その対象や組織、リーダーシップの概要とともに理解する ・医療事故がおこる過程と、それを防止するための対策について理解する 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 出席点を加味する 		
テキスト	系統看護学講座：総合分野 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	看護学科
科目名	総合判断技術演習 30時間・1単位	教員名	看護科教員
概要及び目的	主要な症状を示し、治療・処置を必要とする事例への看護実践をとおして健康状態を整えるための看護の思考プロセスを理解する。		
授業内容	<p>総合判断技術演習Ⅰ（主要な症状を示す対象者へのフィジカルアセスメント演習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例に対する看護過程の展開 2) 状況に応じた看護実践の判断（日常生活援助） 3) 対象理解のためのフィジカルアセスメント <p>総合判断技術演習Ⅱ（治療・処置をうける対象者への看護実践）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例に対する看護過程の展開 2) 対象理解のためのフィジカルアセスメント 3) 状況に応じた看護実践の判断（日常生活援助・診療の補助） 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習出席点 2. 技術試験 3. 提出物 		
テキスト	系統看護学講座 「基礎看護技術Ⅰ」 「臨床看護総論」 「別巻 臨床外科看護総論」医学書院		
備考			

年次・学期	3年次・通年	担当科	看護学科
科目名	在宅看護論実習 90時間・2単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	地域で生活しながら療養する人々、あるいは障害をもなながら生活する人々とそれを支える人々を理解し、在宅における看護の方法を実践する。また、社会の動向に关心をもち、在宅看護の役割を理解する。		
授業内容	<p>在宅看護論実習Ⅰ（在宅支援実習）</p> <p>【目標】 地域で生活しながら療養する人と家族がよりよい生活を送るために、看護師や他職種の支援や自分自身の体験をとおして看護を学ぶ。</p> <p>【実習のねらい】 地域で生活する療養者やその家族にとって、健康の知識がありまた生活の視点をもつ看護師は最も身近な存在であり、果たすべき役割は大きい。在宅看護論実習Ⅰでは、療養者とその家族の健康状態や療養生活を知ることで、よりよく生活するためにどのように看護師や他職種が支えているかを学ぶ。また、社会資源の活用や連携方法を理解することと在宅ケアの重要性を学ぶ。</p> <p>在宅看護論実習Ⅱ（重度障害をもつ人の支援実習）</p> <p>【目標】 重度障害のある人の命を守り、よりよく生活するための看護の特徴を理解する。</p> <p>【実習のねらい】 重度障害のある人は、不可逆的な障害により自分で自分の命を守ること、また、自ら思いや願いを表現することが困難である。そのため看護者は、日々の生活からその人のわずかな変化を捉るために、細やかで正確な観察をおこない、生命力の消耗を最小にするための看護に活かすことが重要である。</p> <p>また、人生のほとんどを施設で過ごす対象者にとって、その場所での生活は生きることそのものである。特に、重度障害のある人にとって不可欠な「呼吸する」「食べる」「排泄する」「動く」など基本的な営みが安全かつ充実することが重要になってくる。この実習では、その人のもてる力を見い出し高め、その人にとってよりよく生活できるように支えることを学ぶ。</p>		
評価方法	学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいてⅠ・Ⅱそれぞれで評価を行い、合格は60点以上とする。 合否の可否は審議し、決定する。		
テキスト	系統看護学講座 在宅看護論、社会福祉：医学書院 江草安彦監修 重症心身障害療育マニュアル：医歯薬出版 朝倉次男監修 重症心身障害児のトータルケア 新しい発達支援の方向性を求めて ：へるす出版		
備考			

年次・学期	3年次・通年	担当科	看護学科
科目名	看護の統合と実践実習 90時間・2単位	教員名	看護科教員
概要 及び 目的	看護チームの一員の体験や複数患者を受け持つことをとおして、知識・技術・態度を統合し、看護実践力を身につける。また、保健医療福祉チームの一員として他職種との連携の必要性を理解し責任ある行動がとれる。		
授業内容	<p>看護の統合と実践実習Ⅰ（看護のしくみの理解実習）</p> <p>【目標】 医療チームの一員としての看護師の役割を理解し、看護の実際を学ぶ。</p> <p>【実習のねらい】 看護は、対象者に提供されるケアを調整、統制する「看護ケアのマネジメント」と看護職が提供するサービス全体の組織を調整、統制する「看護サービスのマネジメント」の視点が重要である。 ここでは、特に「看護サービスのマネジメント」を学ぶ。また、対象者に必要なケアを提供するために、それぞれ専門性をもつ医療チームの実際を講義や見学をとおして、チームの一員として連携や協働をする必要性を理解する。</p> <p>看護の統合と実践実習Ⅱ（看護判断総合実習）</p> <p>【目標】 複数患者を受け持つことでケアの優先度を判断し、時間管理を実践する。また、一勤務帯をとおして看護師の役割と機能の理解を深める。</p> <p>【実習のねらい】 看護師は24時間切れ目なく、複数の患者に対して業務の調整を行い、患者の不利益にならないようにケアを円滑に提供する責任がある。この実習をとおして、複数の患者を受け持ち、ケアの優先順位の決定や時間管理を行なながら実践し、看護を判断する根拠を理解する。また、夜間実習では、日中とは異なる患者や病棟の様子を体験し、その中で看護師がどのように業務を調整しているかを学ぶ。</p>		
評価方法	学生の自己評価及び教員・指導者評価に基づいて評価を行い、合格は60点以上とする。 統合Ⅰ・Ⅱをあわせて総合評価とする。 合否の可否は審議し、決定する。		
テキスト	系統看護学講座 看護学概論、看護管理：医学書院 小西恵美子著 看護倫理 よい看護よい看護師への道しるべ：南光堂 東京医科大学看護専門学校編著 よくわかる看護者の倫理綱領：照林社		
備考			